

授業の目的

どのような場にあっても、自分の考えを、わかりやすく、かつ正確に他者に伝えることは容易ではない。この科目では、単に自分の意見を表明するだけに止まらず、こちらから発信した情報を読み取る相手のことまでしっかりと考えた様々な表現のトレーニングを行い、よりよい表現をするために必要なことを考察していくことを目的とする。

学生の到達目標

1. 自分の思考内容を他者に正確に伝達するために必要な論理的思考を養う。
2. 日常生活で必要とされる「日本語で書く能力」を身に付ける。
3. 実際の社会生活や学習活動に必要な文章を構成する表現能力を高める。

授業計画・学習内容

1. 授業ガイダンス
2. 自己紹介について(1)
3. 自己紹介について(2)
4. 話し言葉と書き言葉(1)
5. 話し言葉と書き言葉(2)
6. セルフイメージの記入(1)
7. セルフイメージの記入(2)
8. 中間レポートの解説
9. Smart goal setting の記入(1)
10. Smart goal setting の記入(2)
11. 自己PRについて(1)
12. 自己PRについて(2)
13. 自分史について(1)
14. 自分史について(2)
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

予習は必要としない。各回で配布された資料を復習としてよく目を通すことが必要である。学習で得た知識を実生活の表現の場で活用することにより、その知識が自らのスキルへと変貌していくはずである。

成績評価の方法・基準

毎回の課題 40%、中間レポート 20%、筆記試験 40%、計 100%

テキスト・参考文献

必要な資料は随時プリントとして配布する。参考資料も随時紹介する。

その他

1. 参加者に様々な表現をしてもらい、集中を養う場であるから、私語は厳禁である。また欠席は極力避けること。
2. 授業に参加する際は国語辞書を必携すること。
3. 教室内で私語が出る場合は別にレポートを課す。

授業の目的

高等学校「情報 A」を前提学習条件とし、以下の能力を養うことを目標とする。

- ①幼稚園・保育所における教材作成、事務処理支援の道具としての活用能力。
- ②デジタル作品とハンドメイド作品の違いを理解し効果的に融合できる能力。
- ③子供への豊かな表現活動の道具として、情報機器を活用する能力の涵養。

学生の到達目標

保育者に必要な、情報機器の活用能力と実践的な応用能力を習得する。

授業計画・学習内容

- 1 オリエンテーション
- 2 高校「情報 A」の復習（基礎知識、基本操作などの確認）
- 3 電子メールマナーと著作権について
- 4 デジタル作品とハンドメイド作品の違いについて
- 5 幼児向けメッセージカードの作成
- 6 幼児向けメッセージカードの作成
- 7 幼児向けメッセージカードの作成
- 8 幼児向けメッセージカードの作成
- 9 幼児向けメッセージカードのクラス内コンペと作品のWeb登録
- 10 幼稚園・保育所における事務処理について
- 11 DTP（デスクトップパブリッシング）について
- 12 園だより作成
- 13 園だより作成
- 14 園だよりのクラス内コンペと作品のWeb登録
- 15 ネットワークについて及びWeb閲覧と検索

学習課題（予習・復習）

1. 授業当日の作品は次回の教材へと継承される
2. 毎回の授業の積み重ねが大切であるから、遅刻や欠席をしないこと
3. 適時、作品製作やレポートを課す

成績評価の方法・基準

1. 出席点（30%）
2. 授業で作成した成果物（40%）
3. 作品制作に関しては、クラス内コンペを実施し評価に加味する（30%）

テキスト・参考文献

参考文献：「新基礎コンピュータ演習」（実教出版）
上記のほか、適時用意する。

その他

本授業の制作作品は、下記Web上に公開する。
<http://yatagai.jp>

授業の目的

この授業の目的は、コンピュータの基本操作を習得し、基本的な情報処理技術および表現能力を伸ばすことである。

学生の到達目標

コンピュータに関する基礎知識を得ること、プレゼンテーションソフト・ワープロソフト・表計算ソフトの基本操作を習得すること、習得した知識・技能を活用して受け手に自分の持つ情報を伝達することの3点を目標とする。

授業計画・学習内容

- 1 ガイダンス、コンピュータに関する基礎知識
- 2 PowerPointによるスライド作成 (1)
- 3 PowerPointによるスライド作成 (2)
- 4 PowerPointによるスライド作成 (3)
- 5 PowerPointを使用したプレゼンテーション[課題1]
- 6 Wordによる文書作成 (1)
- 7 Wordによる文書作成 (2)
- 8 Wordによる文書作成 (3)
- 9 Wordによる文書作成 (4) [課題2]
- 10 Excelによるデータの処理 (1)
- 11 Excelによるデータの処理 (2)
- 12 Excelによるデータの処理 (3)
- 13 Excelによるデータの処理 (4)
- 14 Excelによるデータの処理 (5) [課題3]
- 15 筆記試験及びまとめ

学習課題 (予習・復習)

予習：あらかじめ教科書に目を通して、自宅などで操作方法を確認しておくこと。

復習：操作方法の習得のために、課題を利用して、授業で取り上げた操作を繰り返すこと。

成績評価の方法・基準

出席態度 20%、小テスト 10%、提出物 20%、課題 (3回) 30%、筆記試験 20%、計 100%

テキスト・参考文献

テキスト：「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2007」実教出版

その他

授業中に作成したデータの保存や課題提出のため、USBメモリ (2GB以上) を各自用意しておくこと。各ソフトを使用した課題が課されるので、計画的に取り組むこと。最初の授業には必ず出席すること。無断欠席者は履修を放棄したものとみなします。ほぼ毎回授業開始時に小テストを行います。遅刻・欠席する場合は、事前に連絡をしてください。連絡の有無により、「出席態度」への減点評価が異なります。

授業の目的

- 「情報基礎演習Ⅰ」の内容を継承し、以下の能力を養うことを目標とする。
- ①幼稚園・保育所における教材作成、事務処理支援の道具としての活用能力。
 - ②デジタル作品とハンドメイド作品の違いを理解し効果的に融合できる能力。
 - ③子供への豊かな表現活動の道具として、情報機器を活用する能力の涵養。

学生の到達目標

保育者に必要な、情報機器の活用能力と実践的な応用能力を習得する。

授業計画・学習内容

- 1 世界のメディア作品について
- 2 絵本と電子絵本の違いについて
- 3 電子絵本製作 (グループ分けと資料収集)
- 4 電子絵本製作
- 5 電子絵本製作
- 6 電子絵本製作
- 7 電子絵本製作
- 8 電子絵本製作
- 9 電子絵本のクラス内コンペ
- 10 電子絵本製作のクラス内コンペと作品のWeb登録
- 11 Webページの仕組みと作り方
- 12 保育者向けWebページの作成
- 13 保育者向けWebページの作成 (これまでの作品を登録)
- 14 総合演習
- 15 総合演習

学習課題 (予習・復習)

1. 授業当日の作品は次回の教材へと継承される
2. 毎回の授業の積み重ねが大切であるから、遅刻や欠席をしないこと
3. 適時、作品製作やレポートを課す

成績評価の方法・基準

1. 出席点 (30%)
2. 授業で作成した成果物 (40%)
3. 作品制作に関しては、クラス内コンペを実施し評価に加味する (30%)

テキスト・参考文献

参考文献：「新基礎コンピュータ演習」(実教出版)
上記のほか、適時用意する。

その他

本授業の制作作品は、下記Web上に公開する。
<http://yatagai.jp>

授業の目的

この授業の目的は、コンピュータの基本操作を習得した上で、自らが得た情報を外部に発信するための基本的な情報処理技術および表現能力を伸ばすことである。

学生の到達目標

コンピュータに関する基礎知識を得ること、HTML・CSSによるWebページ作成に関する基本技術を習得すること、情報発信のための基本的なルールを理解することの3点を目標とする。

また、後期では、より高度なデータ処理方法を学び、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

授業計画・学習内容

- 1 ガイダンス、高度な情報検索とデータ処理(1)
- 2 高度な情報検索とデータ処理(2)
- 3 高度な情報検索とデータ処理(3)
- 4 高度な情報検索とデータ処理(4)
- 5 PowerPointを使用したプレゼンテーション[課題1]
- 6 Webページ作成プロジェクト(1)
- 7 Webページ作成プロジェクト(2)
- 8 Webページ作成プロジェクト(3)
- 9 Webページ作成プロジェクト(4)
- 10 プロジェクト中間報告[課題2]
- 11 Webページ作成プロジェクト(5)
- 12 Webページ作成プロジェクト(6)
- 13 Webページ作成プロジェクト(7)
- 14 プロジェクト結果報告[課題3]
- 15 まとめ

学習課題（予習・復習）

予習：あらかじめ教科書に目を通して、自宅などで操作方法を確認しておくこと。

復習：操作方法の習得のために、課される課題を利用して、授業で取り上げた操作を繰り返すこと。

成績評価の方法・基準

出席態度 20%、小テスト 10%、提出物 30%、課題（3回）40%、計 100%

テキスト・参考文献

テキスト：「30時間でマスター インターネットⅢ HTMLでつくるWebページ」実教出版

参考文献：「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2007」実教出版

その他

授業中に作成したデータの保存や課題提出のため、USBメモリ（2GB以上）を各自用意しておくこと。課題が課されるので、計画的に取り組むこと。最初の授業には必ず出席すること。無断欠席者は履修を放棄したものとみなします。ほぼ毎回授業開始時に小テストを行います。遅刻・欠席する場合は、事前に連絡をしてください。連絡の有無により、「出席態度」への減点評価が異なります。

授業の目的

憲法は、国民の人権や国家の統治作用の基本原則を規定した基本法であり、その効力に関しては国内法の最高法規である。現行日本国憲法は、制定公布より今年で65年経過した。この間、社会も大きく変貌した。そこで一度原点に立ち返り、国家の目標、国民の権利義務、平和の在り方、国民の豊かな暮らしなどを現実社会に照らして検証考察し、このことにより憲法の存在価値を学生の身近なものとして捉え憲法学習をより深くする。

学生の到達目標

1. 法および法律の必要性について理解を深める。
2. 日本国憲法の特徴についてより理解度を高める。
3. 日常生活で生ずる事柄を対処できるようにリーガルマインドの向上に努める。

授業計画・学習内容

1. 人と法との関係
2. 国内法の体系
3. 日本国憲法の制定過程
4. 日本国憲法の特徴
5. 天皇制
6. 第9条と自衛隊
7. 選挙と政党
8. 内閣
9. 裁判所
10. 裁判委員制度
11. 人権
12. 地方自治
13. 身近な法律・・・家族法①
14. 身近な法律・・・家族法②
15. 試験とまとめ

学習課題（予習・復習）

1. 専門用語を理解する。
2. 関係資料の収集、新聞の切り抜き等を行う。
3. 質問事項の事前準備をしておく。
4. 講義内容をまとめ、他人に要領よく話せるようにしておく。

※. 積極的に取り組むことにより、知識が広がり授業が面白くなる。

成績評価の方法・基準

筆記試験90%、出席・受講態度10%、計100%

テキスト・参考文献

松井・大谷・佐藤・重盛「社会生活と法」建帛社

その他

「社会あるところに法あり」と言う格言があります。新聞をよく読み、大学生としてまた成人として常識を豊かなものとしましょう

授業の目的

高校までに習得した英語の基礎技能に基づいて、さらに実践的な英語の速読力・精読力を養うとともに、リスニング力を養成する。会話表現や幼児教育に関連した語彙の習得もめざす。また、日本の文化を外国人に紹介するという視点を通して、日本の風物や文化の特色をあらためて確認する。

学生の到達目標

150語～200語の英文を10分程度で読みこなせること、10分程度の英語ストーリーを聞き続けて意味を把握できるようにすること、幼児教育の基礎単語を300語程度獲得することを目標とする。観光英語に関する基本的な語彙や表現を獲得させる。また、聞き取りやすい音読のできる英語朗読力を身につける。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
- 2～3. Tokyo Station
- 4～5. Exploring Metropolitan Tokyo
- 6～7. Restaurant at Ginza
- 8～9. Kakunodate
- 10～11. Old Private Houses in Takayama
- 12～13. Hachio Miso in Okazaki
14. Toyota Automobile Museum
15. Cormorant Fishing, 前期のまとめテスト

- 16～17. Uji Byodoin
- 18～19. Kyoto Studio Park
- 20～21. International Phone Calls
- 22～23. Bakery shops in Kobe
- 24～25. White Heron Castle
26. Ritsurin Park
27. Carms of Miyazaki
28. At the Nichinan Coastline
29. Ishigaki Island
30. Departure, 後期のまとめテスト

学習課題（予習・復習）

テキストの予習は必ず行うこと。音読練習なども適宜課す。

成績評価の方法・基準

前期テスト40%、後期テスト50%、
授業態度などの総合的評価10%、計100%

テキスト・参考文献

Discovering Japan through Tourism English
（「観光英語で日本発見」）英宝社 河原俊昭、小宮富子他 著

その他

その他の教材に関しては授業の中で配布する。

授業の目的

- ・健康の意義、大切さなどを学び、将来にも役立つ考え方、また、健康・体力作りのための運動習慣を身につける。
- ・自分の体の仕組み、特に筋肉、神経、骨格などについて学ぶ。
- ・健康な生活営むにはどうするか学ぶ。

学生の到達目標

- ・理想的な体型・体格とは何かを意識化して、肥満と運動と栄養の関係を学び、健康の意義について自分なりに理解する。
- ・健康生活を送るには具体的に理解する。

授業計画・学習内容

1. VTRを鑑賞し、資料等よりスポーツの魅力、楽しさ、また、人間の持つ運動能力のすばらしさを考え、理解する。（1）
2. VTRを鑑賞し、資料等よりスポーツの魅力、楽しさ、また、人間の持つ運動能力のすばらしさを考え、理解する。（2）
3. 筋肉、神経、骨格それぞれどのような関係にあるか、資料VTRなどを用い、理解し、運動をする時、それらの関係を考えながらできるようにする。
4. 資料・VTRなどを用い、妊娠・出産について学ぶ。
5. 資料・VTRなどを用い、子どもの運動能力について考える。（1）
6. 資料・VTRなどを用い、子どもの運動能力について考える。（2）
7. 資料・VTRなどを用い、健康生活を考える。
8. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

基本的には必要ない。

成績評価の方法・基準

毎回のレポートと試験（90%）、態度（10%）で総合的に判断する。

テキスト・参考文献

「健康とスポーツ概論 ——運動と健康の理論——」（圭文社）

その他

授業の目的

健康の維持増進、生涯にわたるスポーツ実践を目指し、様々なスポーツ種目の実践を通して、技能の習得及び、運動量の確保、体力の向上を目標とします。と同時に、運動効果を得るための方法、内容について理解していきます。また、授業を通じてチームワークの必要性、協同する態度を養います。

学生の到達目標

生涯にわたって運動を楽しもうとする意識を持つ、ウォーミングアップやクールダウンの方法を理解する、自らの身体、健康についての意識を高めることを目標とします。

授業計画・学習内容

- 1 オリエンテーション
- 2 バドミントン基礎
- 3 バドミンントンのリーグ戦①
- 4 バドミンントンのリーグ戦②
- 5 バドミンントンのリーグ戦③
- 6 ウォーキング・ストレッチ
- 7 バレーボール基礎
- 8 バレーボールのリーグ戦①
- 9 バレーボールのリーグ戦②
- 10 バレーボールのリーグ戦③
- 11 エアロビクダンス①
- 12 エアロビクダンス②
- 13 ニュースポーツの体験
- 14 ニュースポーツの体験
- 15 まとめ・レポート課題

学習課題（予習・復習）

予習：指示があった場合は調べ学習をしましょう。

成績評価の方法・基準

出席状況、授業態度（60%）技能（20%）レポート等（20%）の計100%

テキスト・参考文献

テキストは使用しません。必要な資料は、随時配布します。

その他

必ず運動に適した服装、シューズで参加してください。

授業の目的

人が他者を理解し、また、援助を行うことの意味や、それを支える価値や倫理、人権意識、思想、歴史、法や制度、組織、財政など、社会福祉について体系的に学び、現代社会における社会福祉の概要をつかむ。また、広範な対象領域をもつ社会福祉現場の諸相の理解と、複雑な福祉ニーズに対応する社会福祉援助の基本原則の理解を目的とする。

学生の到達目標

- 1 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。
- 2 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。
- 3 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
- 4 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。
- 5 社会福祉の動向や課題について理解する。

授業計画・学習内容

- 1 社会福祉を学ぶ意義
- 2 現代社会と社会福祉
- 3 社会福祉の概念、対象、歴史
- 4 社会福祉の制度と実施体制
- 5 社会福祉従事者の専門性・資格制度
- 6 社会福祉と貧困
- 8 子どもと家庭の福祉
- 9 障害をもつ人の福祉
- 10 高齢者の福祉・医療福祉
- 11 地域福祉・ボランティア活動
- 12 社会福祉における相談援助
- 13 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み
- 14 社会福祉の動向と課題
- 15 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

社会福祉の内容は多岐にわたっているため、毎回の予習・復習が必要である。

成績評価の方法・基準

平常点（授業態度、提出物など）30%、筆記試験 70%、計 100%。

テキスト・参考文献

テキスト：相澤譲治 [編] 『保育士をめざす人の社会福祉』 みらい
参考文献：山縣治、柏女霊峰 [編] 『社会福祉用語辞典』 ミネルヴァ書房
ミネルヴァ書房編集部 [編] 『保育小六法』

その他

社会福祉とは、私たちの生活と命を守るものである。日頃から、社会福祉に関するニュースや新聞記事に目をとめてもらいたい。

授業の目的

超少子高齢人口減少社会、男女共同参画社会、多文化共生社会がすすむなかで、子どもとその家庭への支援が急務となっている。子ども・子育ての課題はもはや家庭や専門職だけで解決できるものではなく、社会全体で支えあう仕組みづくり（福祉のまちづくり）が喫緊の課題である。そのような中、特に、保育・幼児教育・母子保健の分野では児童家庭福祉を共通議論の「場」として機能させることが肝要と言える。しかし、現代社会では子どもを育成する役割を担う家庭や地域・学校等の「環境」は必ずしも望ましい状況ではない。ゆとりの少ない高ストレス社会のなかでの子どもの発達のがみは、家庭崩壊・虐待、児童犯罪、いじめ・不登校等、我々の社会に多様な課題を提示している。本講では、こうした児童家庭福祉問題を学習の素材として、歴史的な変遷から現代の児童家庭福祉の基本的理念を学び、今後の進むべき方向性について示唆することを目的に講義を展開する。

学生の到達目標

1. 現代社会における児童家庭福祉の課題について理解する。
 2. 児童家庭福祉の意義及び歴史の変遷について理解する。
 3. 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
 4. 地域の子育て支援サービスの現状と課題について理解する。
 5. 児童家庭福祉の専門職としての役割と期待について理解する。
- その他、児童家庭福祉に関する直近の政策動向、児童虐待の防止とその支援、児童家庭福祉の実践事例、福祉と教育の接近性、などに関して問題意識を醸成し専門職としての実践能力を高める。

授業計画・学習内容

- 1 オリエンテーション 児童家庭福祉を学ぶ皆さんに期待したいこと
- 2 児童と家庭をとりまく「環境」の理解（1）～児童と福祉～
- 3 児童と家庭をとりまく「環境」の理解（2）～家庭と福祉～
- 4 児童と家庭をとりまく「環境」の理解（3）～地域社会と福祉～
- 5 児童家庭福祉の歴史の変遷（1）～欧米の歴史から学ぶ福祉理念～
- 6 児童家庭福祉の歴史の変遷（2）～子どもの権利条約から学ぶ～
- 7 児童家庭福祉の歴史の変遷（3）～石井十次に学ぶ福祉の精神～
- 8 児童家庭福祉の歴史の変遷（4）～日本の児童福祉の展開～
- 9 児童家庭福祉の制度と法体系（児童福祉サービスと児童福祉施設）
- 10 児童家庭福祉を支える機関・団体（ソーシャルワーク機能の理解）
- 11 児童家庭福祉と子育て支援サービスの実際（「こども園」への展望）
- 12 要養護児童の実態とその支援（1）～虐待の実情から考える～
- 13 要養護児童の実態とその支援（2）～里親制度等から考える～
- 14 地域福祉の主体形成と「子育て支援コミュニティ」の創造
- 15 児童家庭福祉のまとめ（レポート提出後に筆記試験実施予定）

学習課題（予習・復習）

予習・復習は自主性にまかせる。しかし、授業レジュメを毎回配付するためノートやファイル等にて資料整理を必ず行なうこと。なお、本科目は「社会福祉」の専門領域であるため、「福祉（ふくし）」の基本はテキスト、参考文献、関連科目を通して事前理解しておくこと。

成績評価の方法・基準

出席状況（小課題）10%、レポート10%、筆記試験 80%、計 100%

「学び」は学習素材との「出会い」と「対話」によって達成されるため授業では“真剣”に臨むこと。（私語等は一切認めない。退室していただく場合もある。）毎回の授業にて小課題として振り返りシートを提出しそれをもって出席状況を把握する。（提出がない場合は欠席とする。5回をこえて提出がない場合は単位認定しない。）また、レポートの提出は必須とし提出がない場合は評価しない。筆記試験は自筆（自作）のノート・ファイル等を持ち込み可とする。

テキスト・参考文献

<使用テキスト・・・必ず購入し、毎回持参すること。>

○星野政明・川出富貴子・三宅邦建 編『新版 子ども福祉と子育て家庭支援』株式会社みらい、2010年。（ISBN978-4-86015-205-5）

<参考文献>

- ・ 津崎哲郎・橋本和明 編著『最前線レポート 児童虐待はいまー連携システムの構築に向けて』ミネルヴァ書房、2008年。
- ・ 高橋重宏・山縣文治・才村純 編『子ども家庭福祉とソーシャルワーク [第3版]』有斐閣、2007年。
- ・ 飯野真 監修『福祉教育のすすめー理論・歴史・実践ー』ミネルヴァ書房、2006年。

その他

※ 児童家庭福祉の課題は「いま」の私達の、そして「あす」の子ども達の生活課題である。日ごろより関連するニュース（新聞）に注目して豊かで確かな『児童家庭福祉観』を養ってもらいたい。

授業の目的

保育の思想や制度の歴史、現代社会における保育の課題を学び、保育の意義を知る。また、それを実現するための保育方法の基本を理解することを目的とする。

学生の到達目標

- ・保育の思想と歴史の変遷を学び、保育の基盤となる子ども観・保育観を身につける。
- ・保育所保育指針における、保育内容と方法の基本について理解する。
- ・保育の現状と課題について理解し、保育者としてどのような役割が果たせるか考える。

授業計画・学習内容

- 1 乳幼児期の発達と環境
- 2 乳幼児期の発達と環境
- 3 家庭での子育てと保育の違いは何か
- 4 保育の思想と保育制度の変遷（諸外国の保育の歴史）
- 5 保育の思想と保育制度の変遷2（日本の保育の歴史）
- 6 保育の思想と保育制度の変遷3（保育の思想家たちについて）
- 7 保育所保育指針の根拠と制度的位置づけ
- 8 保育内容・方法の基本（生活と遊びを通して総合的に行う保育）
- 9 保育内容・方法の基本2（個と集団への配慮、実践の過程）
- 10 保育の具体的展開
- 11 保育の具体的展開2
- 12 望ましい保育者の資質とは何か
- 13 家族援助と子育て支援
- 14 現代社会と保育の課題
- 15 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

授業内容を思い出せるように、配布されたレジュメや資料を整理、保管し、予習復習をしてください。その他の講義との関連を考え、理解を深めるようにしてください。

成績評価の方法・基準

筆記試験 70%、出席態度 10%、提出物 20% 計 100%

テキスト・参考文献

参考文献：「保育所保育指針」「保育所保育指針解説書」厚生労働省

その他

授業中配布するレジュメや資料を整理、保存するため、ファイルを用意してください。

授業の目的

保育の原理がどのような保育実践として展開されるのかを表現する方法の一つとして、保育の計画がある。その保育の計画が、何のために、具体的にどのように計画を立てるのかを知り、実践を振り返りながら、評価・改善していくプロセスの意識を学ぶことを目的とする。

学生の到達目標

- 1 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。
- 2 保育過程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。
- 3 計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動態的にとらえ、理解する。

授業計画・学習内容

1. 保育の基本と計画
2. 指導計画の種類と役割
3. 保育における計画の考え方（0, 1, 2歳児を中心に）
4. 保育における計画の考え方（3, 4, 5歳児を中心に）
5. 小学校における計画との関係
6. 保育における計画の変遷
7. 日案・週案の作成（4歳児の場合）
8. 日案・週案の作成（3歳児の場合）
9. 保育過程の見直し
10. 指導計画の実際（1）
11. 指導計画の実際（2）
12. 指導計画の実際（3）
13. 指導計画の実際（4）
14. 指導計画の実際（5）
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

・わからないことや疑問に思ったことがあれば、その場で尋ねたり、一緒に考えたりして、その場で解決する。

成績評価の方法・基準

出席 15%、提出物 10%、受講態度 5%、試験 70%、計 100%

- ・保育過程について理解し、保育過程の編成や指導計画の実際について把握できたか。
- ・欠席をせずに、熱心に授業にとりくむことができたか。
- ・求められた課題や提出物を期限までに提出できたか。

テキスト・参考文献

テキスト：柴崎正行・戸田雅美・増田まゆみ編
最新保育講座「保育過程・教育課程総論」ミネルヴァ書房
参考文献：「保育所保育指針解説書」・「幼稚園教育要領解説」
フレーベル館

その他

- ・課題、もしくは話し合いの結果をまとめたものなどを授業後に提出する場合があります。
- ・配布したレジュメや資料は、自分なりに工夫して保存する。

授業の目的

乳児保育は、0・1・2歳児の発達の特徴を理解し、それぞれの年齢に関わる養護と教育の基本を学び、乳児保育に必要な基礎的知識と技術を身につけることを目的とする。

学生の到達目標

- 1、乳児保育の意義と重要性について理解する。
- 2、0・1・2歳児の心身の発達の特徴を理解する
- 3、事例や演習を通して具体的な援助方法を習得し、実践に繋がる力を身につける。

授業計画・学習内容

- 1 オリエンテーション・乳児保育の理念・意義
- 2 乳児の発達の特性と保育（0歳児）発達の課題と対応
- 3 乳児の発達の特性と保育（0歳児）遊びと環境
- 4 基本的生活の内容と方法（0歳児）
- 5 乳児の発達の特性と保育（1歳児）発達の課題と対応
- 6 乳児の発達の特性と保育（1歳児）遊びと環境
- 7 基本的生活の内容と方法（1歳児）
- 8 乳児の発達の特性と保育（2歳児）発達の課題と対応
- 9 乳児の発達の特性と保育（2歳児）遊びと環境
- 10 基本的生活の内容と方法（2歳児）
- 11 乳児の発達の特性と保育（3歳児）発達の課題と対応
- 12 乳児の発達の特性と保育（3歳児）遊びと環境
- 13 発達に合った遊具の製作
- 14 製作物の紹介と実演（対象年齢、遊具の目的と特徴）
- 15 筆記試験と授業のまとめ

学習課題（予習・復習）

- 1 事前学習としてテキストを必ず読んで授業に臨む。
- 2 8・11回は課題を提示し、グループワークを中心に授業を進めます。提示された課題について意見が述べられるようにして参加する。

成績評価の方法・基準

出席状況 20%、提出物 20%、授業態度 30%、期末試験 30%、計 100%
時間を守る、約束を守る、人に迷惑をかけないなど基本的な授業態度と、意欲的に授業に臨んでいるかを評価の重点とする。

テキスト・参考文献

テキスト「乳児の保育新時代」乳児保育研究会編（ひとなる書房）
参考文献「保育所保育指針」
随時資料を配布

その他

授業の目的

乳児保育 II では、乳児との生活を作り上げていくために必要な知識技術を演習形式で具体的に身につけ、より実践力につなげることを目的とする。

学生の到達目標

- 1 実践に繋がる指導計画の基本を身につける。
- 2 演習問題や事例研究を通して、乳児保育の知識や具体的な技術を獲得する。
- 3 乳児保育を取り巻く問題を分析し、解決法や援助となる具体的な方法を習得する。

授業計画・学習内容

- 1 保育の記録と指導計画
- 2 乳児保育の実態と一日の流れ
- 3 指導計画の項目のおさえ（子どもの姿、ねらい、内容、援助）
- 4 指導計画の作成（0歳児、日々の記録）
- 5 指導計画の作成（1・2歳児個別記録）
- 6 指導計画の作成（1・2歳児月指導計画）
- 7 事例検討（子どものかみつきへの対応と保育）
- 8 事例検討（排泄の自立に向けての援助のあり方）
- 9 育児体感（人形を使って、おぶ、抱く、オムツ換え）
- 10 保護者との信頼関係の構築（親とのパートナーシップ）
- 11 家庭・地域・他機関との連携（地域の子育てシステムの理解）
- 12 保育者の専門性と職員の協力体制（担当制について）
- 13 乳児保育の現状とあゆみ（保育所の歴史について）
- 14 乳児保育の展望（保育現場の今日的課題）
- 15 筆記試験とまとめ

学習課題（予習・復習）

- 1 事前学習としてテキストを必ず読んで授業に臨む。
- 2 毎回の授業内容を整理し、常に課題意識・問題意識を持ち積極的に授業に望み、思考力や問題解決力に繋げる事を意識して望む。

成績評価の方法・基準

出席状況 20%、提出物 20%、授業態度 30%、期末試験 30%、計 100%
時間を守る、約束を守る、人に迷惑をかけないなど基本的な授業態度と、意欲的に授業に臨んでいるかを評価の重点とする。

テキスト・参考文献

テキスト「乳児の保育新時代」乳児保育研究会編（ひとなる書房）
参考文献「保育所保育指針」
随時資料を配布

その他

基礎音楽Ⅰ 平尾憲嗣・市川恭子・藤原一子

授業の目的

保育者として、子どもの音楽活動を援助できる音楽力を育むために、豊かな感性と音楽の基礎的技能を身につける。

豊かな感性とは、自身の創造力や表現力を養い、音楽の実践力を身につけます。

本授業は、ML 機器を使用した集団授業で 歌ったり、弾いたり出来る基礎的な鍵盤楽器の奏法などの実践力を習得します。

学生の到達目標

幼児曲の弾き歌いのできるための目標

1. 「バイエル」バイエル教則本の楽語の理解と、バイエル終了バイエル終了者はピアノ曲。
2. 「音楽理論」音楽理論、特に簡易伴奏法のためのコードネーム学習。
3. 「幼児の歌」を弾く、歌う。

授業計画・学習内容

1. 前期授業ガイダンス
2. バイエル・幼児の歌を歌う
3. バイエル・幼児の歌を歌う
4. バイエル・幼児の歌を歌う
5. バイエル・幼児の歌を弾く・音楽理論
6. バイエル・幼児の歌を弾く・音楽理論
7. バイエル・幼児の歌を弾く・音楽理論
8. 中間試験と今後の学習課題について
9. バイエル・幼児の歌を弾く・音楽理論
10. バイエル・幼児の歌を弾く・音楽理論
11. バイエル・幼児の歌を弾く・音楽理論
12. バイエル・幼児の歌を弾く・音楽理論
13. バイエル・幼児の歌を弾く・音楽理論
14. バイエル・幼児の歌の復習・音楽理論
15. 前期試験とまとめ

学習課題（予習・復習）

学習の到達目標を達成するためには、予習・復習の積み上げの練習が最も大切です。

また、普段聴いている音楽には、ストーリーがあります。心の中でその情景を描くように心がけましょう。

成績評価の方法・基準

積極的に取り組む態度 20%、予習・復習学習 30%、中間・前期試験 50%、計 100%

テキスト・参考文献

- 子どものうた村 保育の木（ドレミ楽譜）
子どもの表現活動を導くコードネームによる伴奏方（圭文社）
バイエル（持参者は購入不要です）
バイエル終了者のピアノ曲テキストは各自の進度に合わせて

その他

日常生活において、ジャンルを問わず、いろいろな音楽を聴いたり歌ったりして、音楽を身近に感じて楽しみましょう。

基礎音楽Ⅱ 平尾憲嗣・市川恭子・堀初枝・本田美香

授業の目的

保育者として、子どもの音楽活動を援助できる音楽力を育むために、豊かな感性と音楽の基礎的技能を身につける。

豊かな感性とは、自身の創造力や表現力を養い、音楽の実践力を身につけます。

本授業は、ML 機器を使用した集団授業で、歌ったり、弾いたり出来る基礎的な鍵盤楽器の奏法などの実践力をさらに高めます。

学生の到達目標

幼児曲の弾き歌いのできるための目標

1. 「ピアノ曲」ピアノ曲の楽語の理解と演奏。
2. 「ピアノテクニック」鍵盤楽器学習の基礎技能学習。
3. 「音楽理論」音楽理論、特に簡易伴奏法のためのコードネーム学習。
4. 「幼児の歌」を弾く、歌う。

授業計画・学習内容

16. 後期授業ガイダンス
17. ピアノテクニック・ピアノ曲・幼児の歌を弾く
18. ピアノテクニック・ピアノ曲・幼児の歌を弾く
19. ピアノテクニック・ピアノ曲・幼児の歌を弾き歌い
20. ピアノテクニック・ピアノ曲・幼児の歌を弾き歌い・音楽理論
21. ピアノテクニック・ピアノ曲・幼児の歌を弾き歌い・音楽理論
22. ピアノテクニック・ピアノ曲・幼児の歌を弾き歌い・音楽理論
23. 中間試験と今後の学習課題について
24. ピアノテクニック・ピアノ曲・幼児の歌を弾き歌い・音楽理論
25. ピアノテクニック・ピアノ曲・幼児の歌を弾き歌い・音楽理論
26. ピアノテクニック・ピアノ曲・幼児の歌を弾き歌い・音楽理論
学生音楽祭
27. ピアノテクニック・ピアノ曲・幼児の歌を弾き歌い・音楽理論
28. ピアノテクニック・ピアノ曲・幼児の歌を弾き歌い・音楽理論
29. ピアノテクニック・ピアノ曲・幼児の歌の復習・音楽理論
30. 後期試験とまとめ

※学生音楽祭参加クラス（合唱）は、授業で合唱の学習を行います。

学習課題（予習・復習）

学習の到達目標を達成するためには、予習・復習の積み上げの練習が最も大切です。

また、普段聴いている音楽には、ストーリーがあります。心の中でその情景を描くように心がけましょう。

成績評価の方法・基準

積極的に取り組む態度 20%、予習・復習学習 30%、中間・前期試験 50%、計 100%

テキスト・参考文献

- 子どものうた村 保育の木（ドレミ楽譜）
子どもの表現活動に役立つピアノテクニック（圭文社）
ピアノ曲のテキストは、進度に合わせて

その他

日常生活において、ジャンルを問わず、いろいろな音楽を聴いたり歌ったりして、音楽を身近に感じて楽しみましょう。

授業の目的

子どもの造形表現活動を活発にするため、造形の意義・目的や子どもの造形的発達段階を理解するとともに、基礎的な造形技法や造形表現に関する指導法を身に付けることをねらいとする。

子どもの造形活動を援助するための具体的な内容、指導方法について研究することを目的とする。

学生の到達目標

1. 子どもの造形表現活動の意義・目的を理解する。
2. 子どもの造形的発達段階を理解する。
3. 基礎的な造形技法や造形表現に関する指導法を身に付ける。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 糸遊び、フィンガーペインティング、スクラッチ
3. ドリッピング、マーブリング、スパッタリング
4. デカルコマニー、ウォッシング
5. はじき絵（クレヨン、ロウ）
6. 貼り絵
7. 切り絵
8. 粘土（1）紙粘土・油粘土・水粘土
9. 粘土（2）
10. 自然材を使った造形活動
11. 色々な素材であそぶ（1）柔らかい素材、布・フェルトなど
12. 色々な素材であそぶ（2）固い素材、木・石・針金など
13. 絵本を作ろう（1）
14. 絵本を作ろう（2）
15. 総評、ディスカッション

学習課題（予習・復習）

- ・常に保育・教育実践の場面を想定し、幼児と関わる上での造形活動の在り方を考えます。
- ・イラストや写真など、制作のための資料を準備します。

成績評価の方法・基準

出席状況 10%、授業参加状況、制作過程 30%、提出作品 60%、計 100%

テキスト・参考文献

- ・「保育者のステージ 保育を支える造形の技」 愛智出版
- ・資料などを必要に応じて掲示または配布します。
- ・課題の予習や復習に適している文献などを適宜紹介します。

その他

- ・絵の具などを使用するため、汚れても良い服装およびエプロンを用意して下さい。
- ・作品保存用のファイルを用意して下さい。詳しくは授業内に説明します。
- ・若干の材料費が必要となります。
- ・本シラバスは授業内容の予定を記したもののだが、授業の進捗状況や制作の進度に合わせて、授業計画の変更、追加等が発生する場合があります。

授業の目的

色々な造形活動を通して、保育者としての基礎的な技術技能を身につけるとともに、さまざまな素材による表現手法を習得することをねらいとする。また、子どもと共にものを作ることの喜びを共感するために、「創作することの楽しさ」や「表現することの素晴らしさ」など、自らの造形活動を通して体感させることを目的とする。

学生の到達目標

1. 造形活動における基礎的な技術技能を習得する。
2. 材料の特質や用具・道具類の安全な使用方法を習得する。
3. 創作活動の意義や目的を自らの制作を通して理解する。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 基礎制作（1）
3. 基礎制作（2）
4. 切り絵（1）
5. 切り絵（2）
6. 立体造形（1）基礎
7. 立体造形（2）基礎
8. 立体造形（3）応用
9. 立体造形（4）応用
10. 版画制作（1）
11. 版画制作（2）
12. 陶芸（1）
13. 陶芸（2）
14. 陶芸（3）
15. 総評、ディスカッション

学習課題（予習・復習）

- ・常に保育・教育実践の場面を想定し、幼児と関わる上での造形活動の在り方を考えます。
- ・イラストや写真など、制作のための資料を準備します。

成績評価の方法・基準

出席状況 10%、授業参加状況、制作過程 30%、提出作品 60%、計 100%

テキスト・参考文献

- ・「保育者のステージ 保育を支える造形の技」 愛智出版
- ・資料などを必要に応じて掲示または配布します。
- ・課題の予習や復習に適している文献などを適宜紹介します。

その他

- ・絵の具などを使用するため、汚れても良い服装およびエプロンを用意して下さい。
- ・若干の材料費が必要となります。
- ・本シラバスは授業内容の予定を記したもののだが、授業の進捗状況や制作の進度に合わせて、授業計画の変更、追加等が発生する場合があります。

基礎演習Ⅰ

梅下弘樹・小原倫子

授業の目的

「大学で学ぶ」ということはどういうことなのか、その意味を理解し、そのために必要となる基本的な学習技術を習得する。また、大学生活において、互いを理解し、豊かな人間関係を築くために、コミュニケーション力や表現力の基礎を身につける。

学生の到達目標

大学生として必要な基本的な学習技術を習得すると共にコミュニケーション能力や表現力の基礎を身につける。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション「大学で学ぶ」とはということか
2. 話し方と自己紹介①
3. 話し方と自己紹介②
4. 本の選び方・文献の探し方
5. ノートのとり方①（基本スキルを学ぶ）
6. ノートのとり方②（実践）
7. 本の読み方①（基本スキルを学ぶ）
8. 本の読み方②（実践）
9. レポートの書き方（基本スキルを学ぶ）
10. レポートの書き方（実践）
11. コミュニケーションスキル演習①
12. コミュニケーションスキル演習②
13. 表現演習①（学外）※サマーセミナー
14. 表現演習②（学外）※サマーセミナー
15. まとめと今後の課題

学習課題（予習・復習）

大学生として必要な基本的な学修技術とコミュニケーション能力を習得するという目的をしっかりと持ち、主体的・積極的に授業参加すること。

成績評価の方法・基準

出席状況及び授業態度 30%、各種提出物及びレポート 70%、計 100%

テキスト・参考文献

授業内で必要な資料を随時提示する。

その他

授業実施上の都合により、授業の内容・順番・進度を変更することがある。

基礎演習Ⅱ

赤羽根有里子・梅下弘樹

授業の目的

「保育者になる」という目的意識をもって「大学で学ぶ」とはということなのかを考え、そのために必要となる知識や学習技術を身に付けるとともに、大学生活や行事への参加等を通して豊かな人間関係を築くための表現力を高める。

学生の到達目標

保育者になるために必要な学習課題について考え、その課題を達成するための方法を探り、調査や研究をおこなうことができる。またそれをわかりやすく伝える方法について考え、まわりと協力しながら、まとめたり、発表したりすることができる。

授業計画・学習内容

1. はじめに・・・授業のねらい・目標・内容
2. 学習課題・研究テーマを考える（1）
3. 学習課題・研究テーマを考える（2）
4. 学習課題・研究テーマを選定する（1）
5. 学習課題・研究テーマを選定する（2）
6. 学習課題・研究テーマの調査・研究（1）
7. 学習課題・研究テーマの調査・研究（2）
8. 学習課題・研究テーマの調査・研究（3）
9. 研究のまとめと発表の準備（1）
10. 研究のまとめと発表の準備（2）
11. 研究のまとめと発表の準備（3）
12. レポート指導とまとめ
13. 幼児教育祭の準備・リハーサル
14. 幼児教育祭での発表・実践①
15. 幼児教育祭での発表・実践②

※授業実施上の都合により、上記の計画は変更することがある。

学習課題（予習・復習）

紹介する参考文献、資料だけでなく、関連すると思われる文献を自ら探し読んでおくこと。また、各回の内容を自分なりに整理し、そこから生じた課題について調べたり考えたりすること。

成績評価の方法・基準

出席 10%、授業態度 20%、課題 20%、レポート 50%、計 100%。

テキスト・参考文献

随時提示する。

その他

学んだ成果は幼児教育祭で発表する。調べる、まとめる、発表する等、すべて積極的な態度で臨んでほしい。

授業の目的

いろいろな活動を間接体験することによって、レクリエーション・インストラクターに必要な応用力を養うことをねらいとする。

子どもや高齢者、障害者などの住民（施設の利用者などを含む）が地域の中で積極的につながりを持ちながら協力して生活するためのコミュニケーションと活動の場を企画し、活動を実施展開していくためのコーディネート力を身に付けさせることを目的とする。

学生の到達目標

1. いろいろな活動を間接体験し、レクリエーション・インストラクターに必要な応用力を身につけることができる。
2. 子どもや高齢者、障害者などの住民（施設の利用者などを含む）が地域の中で積極的につながりを持ちながら協力して生活することの大切さが理解できる。
3. またそのためのコミュニケーションと活動の場を企画したり、活動を実施展開したりするためのコーディネート力を身に付けることができる。

授業計画・学習内容

1. レクリエーションの意義
2. レクリエーション運動を支える制度
3. レクリエーション支援者の役割
4. ライフスタイルとレクリエーション
5. 高齢社会の課題とレクリエーション
6. 少子化の課題とレクリエーション
7. 地域とレクリエーション
8. レクリエーション事業とは
9. 事業計画Ⅰ
10. 事業計画Ⅱ
11. レクリエーション活動の安全管理
12. ホスピタリティとは
13. ホスピタリティの示し方
14. アイスブレイキングの意義と基本技術
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

事前にテキスト全体の内容を把握するため、テキストに目を通しておくこと。

毎回授業の最初に、クラス毎のメンバーが受講者全員の前に出て、アイスブレイキングを兼ねたアクティビティを行うので、その事前準備と事後反省が必要となる。

授業において自ら積極的に学ぶ姿勢を持つこと。

映像教材を多用し解説を加えていくので、それに沿って、感じたことや深く考えたこと、想いを伝えたいことを論述する訓練を行う。

成績評価の方法・基準

出席態度 60%、提出物 20%、試験 20%、計 100%

ただし、出席態度の評価には毎回提出するリアクション・ペーパーの記入内容や文字数・行数なども含む。

テキスト・参考文献

「レクリエーション支援の基礎—楽しさ・心地よさを活かす理論と技術—」（財）日本レクリエーション協会、

関連資料はその都度配布する。

その他

テキストは2年次開講のレクリエーション関連科目「レクリエーション演習」「レクリエーション実習」においても使用する。

授業の目的

保育とは人間のどのような営みかを理解したうえで、具体的な保育においてはどのようなことが生じているかを、子どもの側から捉えられるようになることを目指す。保育者が備えなければならない子どもへの感受性とはどのようなものかを理解する。

学生の到達目標

1. 保育は、子どもの人生のかなり初期に関わるために特に考慮しなければならないことを身に着けられるようになること。
2. 保育者としての感受性を高めるためには、子どもや保護者や他の保育者からも学べるようになることが必要であることを実感できるようになること。

授業計画・学習内容

1. 保育とは
2. 家庭での保育と保育制度
3. 保育者のあり方
4. 子どもの他者関係
5. 子どもを理解すること
6. 子どもを支えること
7. 子どもの世界を共に生きること
8. 保育者と子どもとの関係
9. 子どもから学べる保育者
10. 保育者の感受性（1）
11. 保育者の感受性（2）
12. 保育実践から学ぶ（1）
13. 保育実践から学ぶ（2）
14. 保育者と保護者
15. まとめ

学習課題（予習・復習）

予習は課さないが、毎回の講義内容と自分のこれまでの保育観とをつき合せつつ、保育に関する捉え方が自分のなかでどう変わったのかを常に自問することをしてほしい。

成績評価の方法・基準

講義時間内でのミニレポート 30%、中間レポート 30%、最終レポート 40%、計 100%

テキスト・参考文献

必要に応じて適宜提示

その他

授業の目的

「教える」ことは「学ぶ」ことの延長上にあるのではなく、人間に固有の営みであることを理解し、日々の教育実践を支えている根拠を明らかにする。この根拠の上に現実の子どもに「教える」ということがどのようにして成り立っているかを理解し、自分の教育実践の意義と可能性をより高めることをめざす。

学生の到達目標

1. 教育に関する理論等を単に知るのではなく、自分の教育実践と結びつけて、子どもを教えることの意義と可能性を理解する。
2. 自分の今までの教育体験の意味を明確にし、その体験が教育のどのような本質と関わっていたのかを実感する。

授業計画・学習内容

1. 教育の必要性
2. 無意識の教育と意識的な教育
3. 家庭教育と教育制度
4. 子ども親の歴史的変遷
5. 教育思想と教育実践
6. 子ども理解と人間形成
7. 個としての子ども
8. 子どもの社会性
9. 思考と感情や気分
10. 子どもの世界
11. 自己と他者
12. 教師の専門性
13. 子どもと共に学ぶ
14. 子ども集団と雰囲気
15. まとめ

学習課題（予習・復習）

予習は課さないが、毎回の講義内容と自分のこれまでの教育経験とをつき合せつつ、教育に関する捉え方が自分のなかでどう変わったのかを常に自問することをしてほしい。

成績評価の方法・基準

講義時間内でのミニレポート 30%、中間レポート 30%、最終レポート 40%、計 100%

テキスト・参考文献

必要に応じて適宜提示

その他

授業の目的

発達の基本的概念と乳幼児期から児童期を中心とした子どもの心身機能の発達について理解する。また保育・教育実践に関わる心理学的基礎についての概観を得る。

学生の到達目標

- ・発達の基本的概念と乳幼児期から児童期にかけての子どもの心身機能の発達について理解する。
- ・保育者・教育者として必要とされる心理学的基礎概念を理解する。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 発達の概念について
3. 乳児期の発達について
4. 幼児期前期の発達について (1)
5. 幼児期前期の発達について (2)
6. 幼児期後期の発達について (1)
7. 幼児期後期の発達について (2)
8. 児童期の発達について (1)
9. 児童期の発達について (2)
10. 子どもを取巻く心理的な問題—発達障害について—
11. 子どもを取巻く心理的な問題—情緒障害について—
12. 子どもの発達を理解するための視点と発達検査について (1)
13. 子どもの発達を理解するための視点と発達検査について (2)
14. 保育士・幼稚園採用試験（心理学関連領域）の動向について
15. まとめ

学習課題（予習・復習）

授業内容に関する映像等を視聴し、それに関するレポートを提出することがある。

成績評価の方法・基準

出席状況及び授業態度 30% 試験 70%、計 100%

テキスト・参考文献

授業内で必要な資料を配布する。

その他

授業実施上の都合により、授業の内容・順番・進度は変更することがある。

授業の目的

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に示される保育内容について、5領域それぞれの「ねらい」「内容」についてだけでなく、その相互の関連性や幅広い保育に関する事柄や課題について理解を深めること、保育内容を多面的に捉えられるようになることを目的とする。

学生の到達目標

- ・ 保育内容を総合的に考える。
- ・ 保育者に求められる役割・課題を理解する。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション・保育内容とは何か
2. 保育所・幼稚園の生活
3. 遊びや生活からの学び（1）
4. 遊びや生活からの学び（2）
5. 保育所保育指針と幼稚園教育要領における保育内容（1）
6. 保育所保育指針と幼稚園教育要領における保育内容（2）
7. 保育所保育指針と幼稚園教育要領における保育内容（3）
8. 領域と保育内容（1）
9. 領域と保育内容（2）
10. 年齢と保育内容（1）
11. 年齢と保育内容（2）
12. 子育て支援と保育内容
13. 保育内容を深める遊びや文化財
14. まとめ
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

- ・ 授業内容についてのまとめを書き、提出する。
- ・ 授業で指示された課題に取り組む。

成績評価の方法・基準

授業への出席態度（20%）、試験（60%）、提出物・課題（20%）、計100%

テキスト・参考文献

『最新保育講座 保育内容総論』 大豆生田啓友・渡辺英則・柴崎正行・増田まゆみ編 ミネルヴァ書房
『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』

その他

- ・ テキスト等授業に必要なものを毎回持参すること
*テキストを持参しない場合は、出席を認めないことがあります。
- ・ 配布された資料等整理し、保管すること
- ・ 自分なりに重要な点を整理し、記すこと
- ・ 授業内容は変更する可能性があります。

授業の目的

領域「言葉」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の言葉の発達を促す指導法や保育者の役割について、実践的に学ぶ。

学生の到達目標

1. 領域「言葉」のねらいと内容を理解する。
2. 領域「言葉」のねらいに沿って、言葉の発達を促すための指導法や保育者の役割を理解する。
3. 言葉の発達を促すための基本的な教材を知り、製作や実践ができる。

授業計画・学習内容

1. はじめに・・・授業のねらい・目標・内容
2. 領域「言葉」の指導のねらいと内容（1）
3. 領域「言葉」の指導のねらいと内容（2）
4. 領域「言葉」の指導のねらいと内容（3）
5. 乳幼児期における言葉の発達（1）
6. 乳幼児期における言葉の発達（2）
7. 乳幼児期における言葉の発達（3）
8. 幼児期の言葉の障害と指導の実際
9. 乳幼児の言葉の発達を促す教材
10. 言葉の発達を促す教材の製作と実践（1）
11. 言葉の発達を促す教材の製作と実践（2）
12. 言葉の発達を促す教材の製作と実践（3）
13. 言葉の環境づくりと保育者の役割
14. 今後の課題
15. まとめ

*授業の実施上の都合で、上記の計画は変更することがある。

学習課題（予習・復習）

紹介する参考文献、資料だけでなく、関連すると思われる文献を自ら探し読んでおくこと。また、各回の内容を自分なりに整理し、そこから生じた課題について調べたり考えたりすること。

成績評価の方法・基準

出席20%（参加態度も含む）、課題30%、レポート50%、計100%。

テキスト・参考文献

テキストとして、『保育内容 ことば』（成田徹男編 みらい）を使用。その他、必要な資料は随時配布する。

その他

教材の製作や実践には積極的な態度で臨んでほしい。なお、教材製作の際、材料費を集める場合がある。

授業の目的

領域「言葉」について、言葉の習得過程・言葉と認識・言葉と感覚やイメージ・言葉と思考の関係など、乳幼児の言葉の発達に関する基礎的な知識を身に付けさせる。併せて、言葉の習得を援助するための指導法を実践的に学ぶ。

学生の到達目標

1. 子どもの言葉の発達に関する基礎的な知識を学ぶ。
2. 子どもの言葉の習得を援助する技術の基礎を身に付ける。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーションと総論 領域（言葉）でどのようなことを学ぶか
2. 子どもの言葉とはどのようなものか① 幼稚園教育要領と保育所保育指針
3. 子どもの言葉とはどのようなものか② 言葉の習得のメカニズム
4. 子どもの言葉とはどのようなものか③ 言葉の発達のメカニズム
5. 子どもの言葉にどのようにかわるべきか① 保育者の発問と助言の技術
6. 子どもの言葉にどのようにかわるべきか② 子どもにお話をさせる・聞かせる技術
7. 子どもの言葉の習得を援助する技術① 言葉遊び、かるた遊び
8. 子どもの言葉の習得を援助する技術② 手遊び、絵かき歌
9. 子どもの言葉の習得を援助する技術③ 童謡、詩、歌あそび
10. 子どもの言葉の習得を援助する技術④ 素話（お話）、童話
11. 子どもの言葉の習得を援助する技術⑤ 絵本の読み聞かせ
12. 子どもの言葉の習得を援助する技術⑥ 紙芝居
13. 子どもの言葉の習得を援助する技術⑦ その他の教材・教具
14. 子どもと言葉をめぐる環境（園内と家庭内の環境）を考える
15. まとめ及び試験

※ 授業実施上の都合により、上記の計画は変更することがある。

学習課題（予習・復習）

子どもの言葉の習得を援助する技術を身につけるためには、学生諸君の能動的な学習が必要である。

成績評価の方法・基準

出席状況、授業への参加態度 20%、実技の習得状況や提出物ほか 10%、筆記試験（テキスト・ノート持ち込み可）70%、計 100%

※ 授業への参加態度が著しく不良な場合は、上記の割合によらず、不合格とすることがある。

テキスト・参考文献

[テキスト]
成田徹男 編『保育内容ことば』（みらい）

その他

授業の目的

保育者の専門性として『一人一人の幼児の内面を理解し、信頼関係を築き、幼児が自ら発達に必要な経験を獲得していくことができるように援助すること』が求められている。その保育者の専門性の中核をなすものが『幼児理解』であり、幼児を理解したい、理解しようという気持ちを持つようになることがこの授業のねらいである。

学生の到達目標

1. 幼児を理解するとはどのようなことか、その具体的な方法とは何かが分かる。
2. 幼児に望ましい活動を与えるという考えで活動の展開に必要な技術や幼児を集団として扱う技術ばかりを習得しようとせず、一人一人の幼児に何が起り、何を経験して、何が身についたのかに目を向けた『一人一人に応じる保育のあり方』を理解する。

授業計画・学習内容

1. 幼児理解のために（絵本や実習の場面から）
2. 保育者の理解の枠組み
3. 保育の中での幼児理解
4. 幼児理解の基盤となるもの(1)・VTR 視聴（3歳）
5. 幼児の「内なる世界」と「外なる世界」
6. 幼児理解の基盤となるもの(2)・VTR 視聴（4歳）
7. 幼児理解の基盤となるもの(3)・VTR 視聴（5歳）
8. 保育とカウンセリングマインド（保育者の役割から その1）
9. 保育とカウンセリングマインド（保育者の役割から その2）
10. 保育臨床におけるカウンセリングマインド
11. 子育て支援におけるカウンセリングマインド
12. 幼児理解と歴史
13. 共感的理解について(1)
14. 共感的理解について(2)
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

- ・疑問点、不明な点については、積極的に調べたり、尋ねたりして、理解しようとする。
- ・基本的な幼児理解の方法を理解して、事例については考えをまとめていく。
- ・授業時の課題や話し合いについてまとめたものは、提出を求められた際に提出する。

成績評価の方法・基準

出席 15%、提出物 10%、受講態度 5%、試験 70% 計 100%

テキスト・参考文献

テキスト：森上史朗他編「幼児理解と保育援助」 ミネルヴァ書房
参考文献：文部科学省「幼児理解と評価」(株)ぎょうせい

その他

授業の目的

子どもたちの園生活や保育者である幼稚園教諭の役割を観察し、子どもの興味関心、環境へのかかわり方、遊びの実態などを学ぶ。また、幼稚園の概要を把握するとともに、幼稚園の機能的な役割を理解することもねらいとする。時に、幼稚園の環境構成、子どもの発達の特徴、保育者と子どもとのかかわり、保育者としての役割など、幼稚園教育の基本を把握する。

学生の到達目標

1. 見学実習では、子どもの動き、保育者の動きや言葉かけ、遊びの様子を観察して、しっかり記録をとり、意欲的に保育者や子どもの姿から学ぶ姿勢を大切にする。
2. 付属3園での1週間の見学実習を通して、実践を見る目を養い、記録の方法を学んだ後、次の実習への新たな課題を見つけることを目標とする。

授業計画・学習内容

1. 幼稚園教育実習の意義や目的を理解する
2. 幼稚園の特徴や幼稚園での子どもの生活を理解する
3. 幼児期の発達の特徴を理解する
4. 実習の内容と方法を理解する
5. 実習の課題を明確にする
6. 教材研究の方法を理解する
7. 部分実習に向けて教材研究を行う
8. 保育の計画について理解する
9. 部分実習の計画を立案する
10. 事前訪問や訪問指導について理解する
11. 実習記録の意義と方法について理解する
12. 具体的な子どもの姿をイメージして、実習記録を作成する(1)
13. 具体的な子どもの姿をイメージして、実習記録を作成する(2)
14. 実習における環境整備について理解する
15. 実習中の心構えと手続きについて確認し、理解する

学習課題（予習・復習）

毎回、授業で学んだことを「大学でのオリエンテーションの記録」に記入し、提出する。やむなく欠席の場合、不足を補い、次の週の授業までに提出する。

成績評価の方法・基準

- ・ 授業を欠席せず、実習の準備やまとめができたか。
- ・ 意欲的に実習に参加し、学びを深めたか。

実習園の評価 70%、出席・授業態度・提出物 30%、計 100%

テキスト・参考文献

- 「保育・教育実習から学ぶ（第2版）」 愛智出版
「保育・教育実習を深める」 愛智出版
「保育の計画と方法（第2版）」 同文書院
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」 フレーベル館
「実習の手引き」

その他

- ・ 一日一日の積み重ねが大切であることから、授業も実習も欠席がないようにする。
- ・ 実習に関する記録や書類は、読む人に分かるように書き、ファイルに整理して綴じる。

授業の目的

保育者として、子どもの保育のみでなく、保護者への相談援助能力を高めるための知識・技術を学ばせる。

学生の到達目標

- (1) 保育実践にとって必要な社会福祉援助技術の概要と相談援助の方法と技術を理解させる。
- (2) 保育者として、事例検討、ロールプレイ、フィールドワーク等を通して援助対象への理解を深め、ソーシャルワーク技術を実践において活用できるようになる。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 保育とソーシャルワーク
3. ソーシャルワーク技術の理念とその歴史
4. ケースワークの基本 (1)
5. 事例検討
6. ケースワークの基本 (2)
7. 事例検討
8. ロールプレイ
9. ケースワークの援助過程 (1)
10. 事例検討
11. ケースワークの援助過程 (2)
12. 事例検討
13. ケースワークの記録と評価
14. 前期のまとめ
15. 試験及びまとめ
16. グループワークの基本
17. グループワークの援助過程
18. 事例検討
19. ロールプレイ
20. グループワークの記録と評価
21. コミュニティワークの基本
22. コミュニティワークの援助過程と評価
23. 特別な対応を要する家庭への支援 (1)
24. 特別な対応を要する家庭への支援 (2)
25. 事例検討
26. フィールドワーク
27. フィールドワーク
28. ソーシャルワークの動向と課題
29. 一年間のまとめ
30. 試験及びまとめ

学習課題 (予習・復習)

- (1) 講義で学んだ理論的な内容を、演習の中で実践するため、ノートをきちんと取ること。
- (2) 事例検討、ロールプレイ、フィールドワークなどには積極的に参加し、受講者のこれまでの体験に照らし合わせ学んでいくこと。

成績評価の方法・基準

期末に行うテスト (またはレポート) 40%の外、授業中に出された課題のレポート 30%、授業態度・出席状況 30%などを総合して評価する。

テキスト・参考文献

吉田真理著『生活事例からはじめる社会福祉援助技術』 青鞥社
その他、適時関連資料を配布する

その他

授業の目的

社会福祉援助技術の概要及び児童福祉の実践に活用できる社会福祉援助技術について学ぶ。また、社会福祉の援助専門職としての価値、知識、技術について学習し、相談援助実践のための基礎を作ることを目標とする。具体的な学習内容としては、直接援助技術と間接援助技術、地域援助技術の応用、ケアマネジメント、スーパービジョン、社会福祉調査の概要について理解できるようにする。さらに、援助技術の基礎知識に基づき、実際の対人援助の場面において、援助技術をどのように活用し、実践していくかについて具体的に学ぶ。

学生の到達目標

援助の際のコミュニケーションの取り方、ものの見方・考え方、ならびに対人援助をおこなうための技法等を演習によって実際に身につけることを目的とする。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 社会福祉、児童福祉と社会福祉援助技術との関連 (1)
3. 社会福祉、児童福祉と社会福祉援助技術との関連 (2)
4. 社会福祉援助技術の概要
5. 専門対人援助関係の形成と自己覚知
6. 対人援助専門職の倫理と価値 (1)
7. 対人援助専門職の倫理と価値 (2)
8. 対人援助に必要なコミュニケーション (1)
9. 対人援助に必要なコミュニケーション (演習)
10. ケースワークの概要と歴史
11. ケースワークの基本原則
12. ケースワークのプロセス
13. ケースワークの面接 (ロールプレイ)
14. ケースワークの情報収集と分析 (演習)
15. 試験及びまとめ
16. グループワークの概要と歴史
17. グループワークのプロセス
18. グループワークの援助事例
19. コミュニティワークの概要と歴史
20. コミュニティワークのプロセス
21. コミュニティワークの援助事例
22. ケアマネジメントの概要と歴史
23. ケアマネジメントのプロセス
24. ケアマネジメントのアセスメント (演習)
25. スーパービジョン
26. 社会福祉調査法の概要
27. 社会福祉調査法—調査票作成 (演習)
28. 援助事例から学ぶ (1)
29. 援助事例から学ぶ (2)
30. 試験及びまとめ

学習課題 (予習・復習)

1. 授業は老人福祉関連制度や法律など専門的な内容となるので、予習と復習をすること。
2. ノートは板書した内容だけでなく、口頭で説明した内容も書くこと。

成績評価の方法・基準

出席率 20%、レポート 20%、試験 60%、計 100%。

テキスト・参考文献

相澤謙治編、『保育士をめざす人のソーシャルワーク』、みらい、2006。

授業の目的

1. 「家庭的養護」と、「社会的養護」のそれぞれの役割氏名を理解する。
2. 「社会的養護」を担う児童福祉施設の種類・機能を理解する。
3. 「児童養護施設」の生活を理解すると伴にその実際を知る。
4. 児童福祉施設における専門性とそれを支える保育士のミッションを理解させる。
5. 児童観を培うことは、子どもを理解することであることの重要性を学ぶ。

学生の到達目標

とかく、保育所・幼稚園を就職先を選ぶ学生が多い中、児童福祉施設の役割機能を理解することで、子どもとの関わり、醍醐味を味わえるのは児童福祉施設であり、その魅力を十二分に理解すること。
苦労の中に、やり甲斐をみつける保育職であることを実感する。

授業計画・学習内容

- 1～3 「児童養護の概念」家庭という最も小さな集団がもたらすその役割と家庭が児童にとってかけがえの無い場所であることを認識する。
- 4・5 家庭には恵まれない児童のために社会的養護が容易されている。児童福祉施設・里親制度を理解するとともに、児童福祉法に定められた児童福祉施設について理解する。
- 6～9 14種類の児童福祉施設について、それぞれの役割・機能を理解する。
- 10～12 施設で基本的な生活習慣や社会的な生活習慣がどのように構築されていくかを学ぶ。そのために必要な知識・技術とはなにかを学ぶ
- 13・14 児童福祉施設で展開される個別援助技術・や集団援助技術の展開方法を学ぶ
- 15 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

児童福祉施設実習を終えて、児童福祉施設での生活体験を踏まえ、指導者としての関わりがどうあるべきだったか。実習を振り返りながらの演習も行う。

成績評価の方法・基準

子どもを理解するためには、子どもの気持ちを聴くことが大切である。人の話を聴くことは相手を理解することにつながる。従って、聴く姿勢というものを重視する。

授業中の態度 30%、試験 40%、出席率 20%、質疑 10%、計 100%

テキスト・参考文献

現場が教科書である。教科書は用いない。

その他

講義ノートが現場のマニュアルになるよう講義を進めていく。

授業の目的

3年次の保育所実習に向けて、保育所という施設の特徴、乳幼児の生活や遊びの姿、保育者の仕事や乳幼児に対するかかわりなど、保育実践の実際について、講義や演習を通して理解することをねらいとする。また、実習の目的、実習の流れについて概説するとともに、実習記録や提出書類の書き方や具体的な教材研究を、授業の中で実際に行いながら実践への準備を目指す。

学生の到達目標

1. 保育所保育実習に向けて、保育所という施設の特徴を知り、乳幼児の生活や遊びの姿、保育者の仕事や乳幼児に対するかかわり等について理解する。
2. 実習に向けて、教材等を作成し、仮想指導案を作成して、事前の準備を整える。
3. 保育所保育実習に向けての課題を明確にし、実習に向けての心構えを持つ。

授業計画・学習内容

1. 保育所保育実習の意義や目的を理解する
2. 保育所について理解する
3. 保育所での子どもの生活(デイリープログラム)を理解する
4. 保育所における子育て支援事業について理解する
5. 年齢ごとの発達を理解する(1)
6. 年齢ごとの発達を理解する(2)
7. 実習の内容と方法を理解する
8. 実習の課題を明確にする
- 9～11. 教材研究(1)～(3)
- 12, 13. 具体的な子どもの姿をイメージして記録を書く(1)(2)
- 14, 15. 仮想部分案を作成する(1)(2)

学習課題（予習・復習）

- ・毎回授業で学んだことを「大学でのオリエンテーションの記録」に記入し、提出する。やむなく欠席の場合、不足を補い、次の週の授業までに提出する。
- ・事前に必要な書類を作成し、決められた期限内に提出する
- ・実習(実践)に使用する教材について研究や準備を行う

成績評価の方法・基準

- ・授業を欠席せず、実習の準備やまとめができたか。
- ・3年次の保育所保育実習において、意欲的に実習に参加し、学びを深めたか。

実習園の評価 70%、出席・授業態度・提出物 30%、計 100%

テキスト・参考文献

- 「保育・教育実習から学ぶ(第2版)」 愛智出版
- 「保育・教育実習を深める」 愛智出版
- 「保育の計画と方法(第2版)」 同文書院
- 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」 フレーベル館

「実習の手引き」

その他

- ・実習に関する記録や書類は、読む人に分かるように書き、ファイルに綴じて整理する
- ・授業内容を十分把握して事前の準備をするために、授業は欠席しないようにする
- ・提出物の期限を守り、授業担当者との連絡を密にして、万全の準備を整えて字実習に臨む

授業の目的

保育実習は保育士資格取得のための必修科目であり、実践場面へ直接関わるための準備として重要な意味をもつ科目である。この授業では保育実習の一つである施設実習に必要な基礎知識・技術・倫理を習得し、実習課題を明確化するとともに、実習生として必要な態度を身につける。

学生の到達目標

1. 施設実習に必要な基礎知識・技術・倫理を習得する。
2. 実習生として必要な態度を身につける。
3. レポートや実習記録の書き方を身につける。
4. 実習後は、実習を振り返り、反省や考察ができる。

授業計画・学習内容

- 1 施設実習の意義と目的
- 2 実習施設の理解①（障害系施設）
- 3 実習施設の理解②（養護系施設）
- 4 外部講師による特別授業
- 5 見学実習（児童養護施設）
- 6 実習施設の決定
- 7 実習課題の明確化
- 8 実習記録の意義・方法
- 9 事前訪問の方法・諸注意
- 10 施設実習までの書類等手続き
- 11 施設実習の課題の修正・完成
- 12 実習の心構えの理解
- 13 実習に向けての最終確認
- 14 事後指導
- 15 事後指導

学習課題（予習・復習）

毎回の授業内容を復習するとともに、テキストや実習の手引き、その他実習関連資料を熟読し実習に備える。

成績評価の方法・基準

実習園での評価 70%、出席・授業態度・提出物 30% 計 100%
上記の評価と保育所実習の評価を合わせて総合的に評価される。

テキスト・参考文献

愛知県保育実習連絡協議会 [編] 『保育士をめざす人の福祉施設実習』
みらい

その他

- ・ 毎回、実習に必要な講義や準備等を行うため、授業は欠席しない。
- ・ 授業ノートやレポートなどの提出を求めるが、期日を守り必ず提出する。
- ・ 配付資料は必ず読み、管理する。

授業の目的

- ・ 保育における小児の健康の意味を認識し、保健活動の重要性を理解する。
- ・ 小児の心身の健康問題と養育環境との関係を理解し、適切に対処できるようにする。
- ・ 小児の健康状態を個人生活と集団生活のレベルで理解する。
- ・ 小児の疾病や事故の特徴とその予防について理解し、緊急時の対応ができるようにする。
- ・ 小児の健康と家庭や地域との関係を認識し、家庭や地域との連携を通じた保健活動の重要性を理解する。

学生の到達目標

- ・ 子供たちの心身の発育がいかにすばらしく、重要なことなのかを理解し、それに関わる保育者のおもしろさと責任を感じとってほしい。

授業計画・学習内容

1. 小児保健の意義と目的 (1)
2. 小児保健の意義と目的 (2)
3. 子どもの発育・発達 (1)
4. 子どもの発育・発達 (2)
5. 子どもの発育・発達 (3)
6. 子どもの発育・発達 (4)
7. 子どもの発育・発達 (5)
8. 子どもを取り巻く環境 (1)
9. 子どもを取り巻く環境 (2)
10. 子どもを取り巻く環境 (3)
11. 子どもの生活習慣と健康 (1)
12. 子どもの生活習慣と健康 (2)
13. 子どもの生活習慣と健康 (3)
14. 子どもの栄養 (1)
15. 子どもの栄養 (2)
16. 子どもの栄養 (3)
17. 子どもによくみられる症状と対処法 (1)
18. 子どもによくみられる症状と対処法 (2)
19. 事故と安全指導および応急処置 (1)
20. 事故と安全指導および応急処置 (2)
21. 事故と安全指導および応急処置 (3)
22. 子どもの病気・異常とその予防 (1)
23. 子どもの病気・異常とその予防 (2)
24. 子どもの病気・異常とその予防 (3)
25. 子どもの病気・異常とその予防 (4)
26. 子どもの病気・異常とその予防 (5)
27. 母子・小児保健行政 (1)
28. 母子・小児保健行政 (2)
29. 母子・小児保健行政 (3)
30. 試験およびまとめ

学習課題（予習・復習）

- ・ 予習：テキストの該当箇所を読んでおく
- ・ 復習：テキスト、当日配付するレジメを参照して自分のサブノートを作る

成績評価の方法・基準

- ・ 試験 80%、出席日数 10%、受講態度 10%、計 100%

テキスト・参考文献

- ・ テキスト：新時代の保育双書 図解 小児保健 (株) みらい
- ・ 参考文献：
 - 毎回配付するレジメ
 - 子どもの応急処置マニュアル 南江堂

その他

- ・ 講義中の私語は厳禁です

授業の目的

最近、社会福祉の発展に伴い、幼稚園や保育所で障害児を受入れ、統合保育を行っているところが増加傾向である。また、発達障害や発達障害が疑われる幼児も保育・教育現場で多数報告されるようになってきている。この授業では、障害児についての知識・理解を深め、就職後対応していける資質を獲得することを目的とする。

学生の到達目標

障害児に関する知識・理解を深め、対応していくためのスキルを学ぶ。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 障害論 1
3. 障害論 2
4. 視覚障害、聴覚障害、言語障害について
5. 肢体不自由について
6. 知的障害について
7. 情緒障害、病弱・虚弱・内部障害について
8. 発達障害について
9. 障害児理解の方法 1
10. 障害児理解の方法 2
11. 障害児理解の方法 3
12. 障害児のアセスメントについて 1
13. 障害児のアセスメントについて 2
14. 障害児のアセスメントについて 3
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

授業中に提示する情報について、事前・事後に調べることで、学習の補完と理解を深めること。

成績評価の方法・基準

出席状況 20%、授業態度 30%、試験 50%、計 100%

テキスト・参考文献

随時提示します。

その他

随時関連する映像資料を見せることがあります。映像資料の時間とクラスの時間割によっては、負担がない形で計画的な補講を組み合わせることによって2時間連続で授業をすることもあります。またSKホールでの視聴を行うこともあります。

社会情勢（事件や政治等）に合わせて内容・順番・進度を変更することもあります（上記の通り進まないこともあります）。

授業の目的

最近、幼稚園や保育園で障害児の受け入れが進んでおり、発達障害や発達障害が疑われる幼児への理解や対応の必要性が高まっている。

この授業では、保育・教育場で障害を持つ子どもに対応していくために必要とされる基本的な知識・技術について学ぶことを目的とする。

学生の到達目標

保育・教育場面において障害児に対応していくために必要な基本的知識・技術を学ぶ。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 障害論 1
3. 障害論 2
4. 発達障害について（知的障害）
5. 発達障害について（自閉症）
6. 発達障害について（学習障害、注意欠陥/多動性障害）
7. 情緒障害について
8. 統合保育について
9. 障害児理解の方法 1
10. 障害児理解の方法 2
11. 障害児理解の方法 3
12. 障害児のアセスメントについて 1
13. 障害児のアセスメントについて 2
14. 障害児のアセスメントについて 3
15. まとめ

学習課題（予習・復習）

授業に関連した映像等を視聴し、レポートを提出することがある。

成績評価の方法・基準

出席状況及び授業態度 30%、提出物及び試験 70%、計 100%

テキスト・参考文献

授業内で必要な資料を随時提示する。

その他

授業実施上の都合によって、授業の内容・順番・進度を変更することがある。

授業の目的

様々な音楽活動を通して、楽しさや喜びを経験し、自らの音楽力を高めると共に保育実践において必要な知識や技能を習得する。

学生の到達目標

「幼児の歌」20曲以上の弾き歌い。
保育の現場で展開できる、様々な音楽技術力と音楽表現力の獲得。

授業計画・学習内容

1. 前期授業ガイダンス
2. 幼児の歌の弾き歌い・簡易伴奏法と音楽理論
3. 幼児の歌の弾き歌い・簡易伴奏法と音楽理論
4. 実習に備えて（手遊び）
5. 実習に備えて（手遊び）
6. 幼児の歌の弾き歌い・簡易伴奏法と音楽理論
7. 幼児の歌の弾き歌い・簡易伴奏法と音楽理論
8. 中間試験
9. 幼児の歌の弾き歌い・簡易伴奏法と音楽理論
10. 幼児の歌の弾き歌い・簡易伴奏法と音楽理論
11. 幼児の歌の弾き歌い・簡易伴奏法と音楽理論
12. 幼児の歌の弾き歌い・簡易伴奏法と音楽理論
13. 幼児の歌の弾き歌い・簡易伴奏法と音楽理論
14. 復習と確認
15. 試験およびまとめ
16. 後期授業ガイダンス
17. 幼児の歌の弾き歌い・手遊び
18. 幼児の歌の弾き歌い・発声法と歌唱表現
19. 幼児の歌の弾き歌い・発声法と歌唱表現
20. 幼児の歌の弾き歌い・発声法と歌唱表現
21. 幼児の歌の弾き歌い・発声法と歌唱表現（合唱）
22. 幼児の歌の弾き歌い・発声法と歌唱表現（合唱）
23. 学生音楽祭
24. 幼児の歌の弾き歌い・簡易伴奏法
25. 中間試験
26. 幼児の歌の弾き歌い・簡易伴奏法
27. 幼児の歌の弾き歌い・簡易伴奏法
28. 幼児の歌の弾き歌い・簡易伴奏法
29. 試験およびまとめ
30. 試験およびまとめ

学習課題（予習・復習）

幼児の歌をなるべく暗譜で弾き歌いする。
情景を意識しながら美しい声でうたう。

成績評価の方法・基準

実技試験 70%・出席 20%・授業態度 10%、計 100%

テキスト・参考文献

- 「みんなで手遊び One・Two・トン」
「子どものうた村 保育の木」
「子どもの表現活動に役立つピアノテクニック 保育の達人」

その他

音楽の楽しさや感動することを体験するために「学生音楽祭」に積極的に出演して下さい。

授業の目的

身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、身体能力や運動技能を高める。また、保育の中で取り上げる運動遊びに関する教材を作成する。

学生の到達目標

幼児の運動能力、どのような遊びができるか理解し、実践できるように知識や技能を習得する。
保育実践において必要な知識や技能の習得をする。
運動遊びにおける安全管理を理解する。

授業計画・学習内容

前期

1. 身体運動に関する基本知識などを学ぶ。(1)
2. 身体運動に関する基本知識などを学ぶ。(2)
3. 身体運動に関する基本知識などを学ぶ。(3)
4. グループ分けをし、指導案、身体運動の技能、保育実践において必要な技能等を学ぶ。(1)
5. グループ分けをし、指導案、身体運動の技能、保育実践において必要な技能等を学ぶ。(2)
6. グループでまとめたものを発表する。(1)
7. グループでまとめたものを発表する。(2)
8. グループでまとめたものを発表する。(3)
9. グループでまとめたものを発表する。(4)
10. グループでまとめたものを発表する。(5)
11. グループでまとめたものを発表する。(6)
12. グループでまとめたものを発表する。(7)
13. グループでまとめたものを発表する。(8)
14. 発表のまとめ
15. 試験及びまとめ

後期

16. 前期と違う種目を選び遊び方の研究と指導案作りをする。(1)
17. 前期と違う種目を選び遊び方の研究と指導案作りをする。(2)
18. グループでまとめたものを発表する。(1)
19. グループでまとめたものを発表する。(2)
20. グループでまとめたものを発表する。(3)
21. グループでまとめたものを発表する。(4)
22. グループでまとめたものを発表する。(5)
23. グループでまとめたものを発表する。(6)
24. グループでまとめたものを発表する。(7)
25. グループでまとめたものを発表する。(8)
26. 発表のまとめ
27. VTR、教科書により幼児の遊びの特徴・安全管理等を学ぶ。(1)
28. VTR、教科書により幼児の遊びの特徴・安全管理等を学ぶ。(2)
29. VTR、教科書により幼児の遊びの特徴・安全管理等を学ぶ。(3)
30. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

授業終了後にプリントを配布しますので、それをよく読んで、ファイリングしておく。

成績評価の方法・基準

出席状況（60%）、授業態度（30%）、技能（10%）等により、総合的に判断する。

テキスト・参考文献

新版改訂 「乳幼児の運動あそび」（建帛社）

その他

必ず運動に適した服装、運動靴。

授業の目的

保育の現場において、心とからだと共に深く豊かに開放され、生き生きと動くからだの獲得を目指し、ダンス（身体表現）の領域からアプローチしたいと考えています。ひらかれた身体を用いて、温かくしなやかに子どもとコミュニケーションを取ることのできる保育者の育成を目指します。自己の身体と向き合い、自由に身体を使って動くことの楽しさ、技術を身につけていきます。

学生の到達目標

自己のからだと向き合い、思い通りに伸び伸びと動くことの楽しさ、技術、創造性を身につける。また他者と協働する過程を通して弾力的なコミュニケーションを身につけることを目標とします。

授業計画・学習内容

- 1 「保育者に求められるからだ」について
- 2 からだでコミュニケーション
- 3 イメージを手がかりにした表現①
- 4 イメージを手がかりにした表現②
- 5 日常的なものを使って
- 6 リズムダンスを創作しよう
- 7 動きから生まれる表現
- 8 歌、音を手がかりにした表現
- 9 絵本・文学作品を手がかりにした表現
- 10 表現活動の実践①
- 11 表現活動の実践②
- 12 人との関わりをねらいとした表現①
- 13 人との関わりをねらいとした表現②
- 14 まとめ（実技テスト）
- 15 まとめ（実技テスト）

学習課題（予習・復習）

予習：常に自分の感性を磨き努力をしましょう。指示があった場合は調べ学習をしてください。

復習：必ず、授業の振り返りをしてください。授業で行った部分のテキストを読んでおきましょう。

成績評価の方法・基準

出席状況、平常の授業態度・出席（40%）実技試験（40%）ノート・レポート（20%）の計100%

テキスト・参考文献

「子ども・からだ・表現」西洋子ほか共著（市村出版）

その他

必ず運動に適した服装で参加してください。

授業の目的

児童文化についての基本的な知識や教養を身に付け、児童文化と生活のかかわりを理解し、保育者として適切な援助のあり方について、実践的に学ぶ。

学生の到達目標

1. 児童文化についての基本的な知識や教養を身に付けることができる。
2. 教材製作や実践を通して、児童文化と生活のかかわりについて理解する。
3. 児童文化教材の紹介や、それを使った適切な援助のあり方について、提案・発表をおこなうことができる。

授業計画・学習内容

1. はじめに
2. 児童文化とは何か
3. 児童文化の歴史（1）
4. 児童文化の歴史（2）
5. 児童文化と昔話
6. 昔話作品の鑑賞（1）
7. 昔話作品の鑑賞（2）
8. グループによる昔話作品研究（1）
9. グループによる昔話作品研究（2）
10. 保育の場を想定した教材作りの計画（1）
11. 保育の場を想定した教材作りの計画（2）
12. 研究発表と教材の紹介（1）
13. 研究発表と教材の紹介（2）
14. 今後の課題
15. まとめ

*授業の実施上の都合で、上記の計画は変更することがある。

学習課題（予習・復習）

紹介する参考文献、資料だけでなく、関連すると思われる文献を自ら探し読んでおくこと。また、各回の内容を自分なりに整理し、そこから生じた課題について調べたり考えたりすること。

成績評価の方法・基準

出席 20%（参加態度も含む）、課題 30%、レポート 50%、計 100%。

テキスト・参考文献

（参考文献）原昌・片岡輝『児童文化』（建帛社）

その他

作品研究のための参考文献を探すにあたっては、大学図書館だけでなく、地域の図書館に出かけてみる等、積極的に取り組んでほしい。なお、教材製作の際、材料費を集める場合がある。

授業の目的

児童文化財（児童文学・童謡・絵本・紙芝居をはじめ、玩具・遊び・わらべ唄など）の成り立ちや受容のありようについて、理論的・実践的に学ぶ。

学生の到達目標

1. 児童文化財について基礎的な知識を身につける。
2. 子どもたちに児童文化財を享受させる上で必要な技量を実践的に習得する。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーションと総論 児童文化演習でどのようなことを学ぶか
2. 玩具と遊びの歴史と理論
3. 玩具と遊びの実際
4. 子どもの歌（伝承わらべ唄と遊び）
5. 子どもの歌（唱歌）
6. 子どもの歌（童謡）
7. 昔話・伝説・神話
8. 児童文化とメディア（レコード・ラジオ・映画・テレビ）
9. 近・現代の童話と児童文学
10. 絵本の読み聞かせや童話の朗読の技術
11. 絵本の読み聞かせや童話の朗読の実際
12. 紙芝居の選択と技術
13. 紙芝居の実演
14. 外国の童話
15. まとめ及び試験

※ 授業実施上の都合により、上記の計画は変更することがある。

学習課題（予習・復習）

発表や実演を中心に授業をすすめることが多いので、事前に調べたり練習したりして、能動的な姿勢で学習にとりくむこと。

成績評価の方法・基準

出席状況、授業への参加態度 20%、実技の習得状況や提出物ほか 10%、筆記試験（テキスト・ノート持ち込み可）70%、計100%

※ 授業への参加態度が著しく不良な場合は、上記の割合によらず、不合格とすることがある。

テキスト・参考文献

[テキスト]
原昌・片岡輝 編著『児童文化』（建帛社）

その他

授業の目的

私たちは多くの人と関わり合って生活しています。学生生活と違い、社会生活では、組織内だけでなく、子供の保護者や地域の方々など年齢や立場の違う様々な人と接します。相手と円滑なコミュニケーションを図り、良い人間関係が築けるよう社会人としてのマナーを学びます。又、就職活動における基本的なマナーも身につけます。

学生の到達目標

1. 社会人として、保育者として基本的なマナーを身に付けること。
2. 就職活動時の基本マナーを理解し、実践できるようになること。
3. グループワークを通して、組織の中での役割を理解すること。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション・授業のねらいと進め方・自己認識
2. マナーの歩みと必要性・第一印象の重要性・挨拶
3. 社会人としての態度と身だしなみ
4. 仕事の基本・コミュニケーション（報告・連絡・相談）
5. 敬語（基本編）敬語の種類と使い方
6. 敬語（応用編）状況に応じた敬語の使い方・感じのよい話し方
7. 接遇の基本・電話応対（基本編）
8. 電話応対（応用編）実習事前訪問電話のかけ方・園での電話応対
9. 来客応対のマナー（受付・ご案内・お茶出し）
10. 事前訪問のマナー
11. 訪問応対総合実習
12. ビジネス文書の基本・対内文書と対外文書・実習のお礼状作成
13. 冠婚葬祭のマナー・贈答のマナー・契約の知識
14. 筆記試験
15. 実技試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

授業は個人ワークのみならず、グループ学習・ロールプレイング等を用い、実践的に学習します。

体験学習形式のため、欠席することなく積極的に取り組んでください。各単元終了時に理解度確認を実施します。

成績評価の方法・基準

授業への取り組み方・グループ学習における役割 20%

小テスト・レポート 20%

筆記試験 30% 実技試験 30% 合計100%

ただし、筆記試験未受験の場合は、実技試験受験を認めません。

テキスト・参考文献

テキスト
『保育者のためのマナー演習』
著者：河村真澄・水谷啓子・明瀬純子（三恵社）
『なんで挨拶しなきゃいけないの？マナーの「ナンデ？」がわかる本』
著者：山田千穂子（あさ出版）
* 随時ワークシートを配布します。

その他

6201教室の機材（ビデオ・模擬電話）及び備品（茶器セット等）使用実践的に学びます。

2号館7階応接室にて訪問応対実技実習予定。

授業の目的

感性豊かな保育者になるために、いろいろな音を感じて歌ったりし、また楽器奏法を習得して、音楽の楽しさを味わいます。

学生の到達目標

音を演奏することを通して、「表現することの楽しさ」を感じとります。保育者として、子どもの音楽表現活動を援助する感性を身につけます。

授業計画・学習内容

- 1、オリエンテーション
- 2、音楽について考える
- 3、音を知る ①
- 4、音を知る ②
- 5、音楽表現 ①
- 6、音楽表現 ②
- 7、音楽表現 ③
- 8、音楽表現発表 ④
- 9、音楽表現発表 ⑤
- 10、子どもと音楽表現 ①
- 11、子どもと音楽表現 ②
- 12、子どもと音楽表現 ③
- 13、子どもと音楽表現発表 ④
- 14、子どもと音楽表現発表 ⑤
- 15、まとめ

学習課題（予習・復習）

音楽表現としての実践力を身につけるには、人前で表現することを恥ずかしがらずに表現することが大切です。

それには、苦手意識を克服することです。

成績評価の方法・基準

授業への取り組み態度（出席状況含む）50%、
発表 50%、計 100%

テキスト・参考文献

必要に応じて配付・紹介

その他

- ・ 成果発表として、学生音楽祭に参加することもあります。
- ・ 付属幼稚園の生活発表会を積極的に見学してください。

授業の目的

時代の変化と共に、子どもを取り巻く音楽環境も変わってきた。子どものうたうたもテレビ等の影響で新しい感覚のうたが増え、うたい継がれてきたうたをあまり歌わなくなった傾向もある。子どもの感性を育てる音楽、うたについて考える。また学生自身で、子どもと音楽との関わりを考えながら、子どもに夢を与え豊かな感性を育てる「うた」を創作する。

学生の到達目標

自らの音楽性を養い、保育現場で楽しく歌える幼児歌曲の創作を目指す。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. オリエンテーション、学外研修（東公園）
3. 自分の課題
4. 自分の課題
5. 子どもと音楽について（子どもの好きな歌を調べる）
6. 子どもと音楽について（子どもの好きな歌を調べる）
7. 子どもと音楽について（子どもの好きな手遊びを調べる）
8. 子どもと音楽について（子どもの好きな手遊びを調べる）
9. 楽譜の仕組みを知る
10. 楽譜の仕組みを知る
11. 「詩」「メロディ」について（イメージの作り方）
12. 楽譜の書き方
13. メロディの作り方
14. アレンジの仕方
15. まとめ

学習課題（予習・復習）

1. 「楽譜」を正しく読む、書くことから学習する。
2. 思いついたメロディや詩を書き留める
3. 様々な音楽にふれる機会を作る。

成績評価の方法・基準

作品 70%、授業態度 30%、計 100%

テキスト・参考文献

誰にでもできる作曲講座（ドレミ楽譜出版）
誰にでもできるアレンジ講座（ドレミ楽譜出版）
誰にでもできる作詞講座（ドレミ楽譜出版）
名曲を作っちゃおう！（全音楽譜出版）

その他

授業の目的

子どものための異文化コミュニケーション、を総合テーマとして、外国人の子どもを受け入れている保育園の現状や、市町村の外国人を対象とした行政サービスなどについて理解する。また、外国人の子どもを受け入れる際に求められる保育士としての心構えや、保護者などへの対応の工夫などについて理解する。また、保育の国際化の現状について理解する。

学生の到達目標

身近は市町村で、外国人がどの程度居住しているのか、どのような行政サービスがなされているのかについての資料収集を通して、地域の外国人受け入れ状況と対応などを理解する。また、外国人の子どもを受け入れている保育所などの実情を文献を通して理解する。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 外国人の子どもの保育 1
3. 外国人の子どもの保育 2
4. 外国人の子どもの保育 3
5. 外国人の子どもの保育 4
6. 保育の国際化について 1
7. 保育の国際化について 2
8. 保育の国際化について 3
9. 保育の国際化について 4
10. 保育の国際化について 5
11. 子どものための異文化コミュニケーション 1
12. 子どものための異文化コミュニケーション 2
13. 子どものための異文化コミュニケーション 3
14. 子どものための異文化コミュニケーション 4
15. 授業のまとめ

学習課題（予習・復習）

テキストは予習しておくことが望ましい。担当部分についての口頭発表を行うとともに、レポートを課す。

成績評価の方法・基準

口頭発表 40%、レポート 50%、授業態度 10%、計 100%

テキスト・参考文献

「保育の国際化に関する調査研究報告書」についての資料その他を配布する。

その他

授業の目的

子どもを取り巻く環境は、ますます複雑化し、また、社会的状況も変化している。文部科学省の資料から子どもの体格は、順調に伸びているが、体力は、少しずつ低下している。そこで授業では、現状把握と対策を考えて、運動実践を通して、体力づくり、特に敏捷性を養うものを中心に展開していきたい。

学生の到達目標

体力の向上の仕方、敏捷性の養う運動等を理解し、実践できるようにする。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 自分の体力・体格を認識し、体力向上をめざす。(1)
3. 自分の体力・体格を認識し、体力向上をめざす。(2)
4. 自分の体力・体格を認識し、体力向上をめざす。(3)
5. 自分の体力・体格を認識し、体力向上をめざす。(4)
6. 自分の体力・体格を認識し、体力向上をめざす。(5)
7. 自分の体力・体格を認識し、体力向上をめざす。(6)
8. グループごとに体力作りの研究(1)
9. グループごとに体力作りの研究(2)
10. 敏捷性等を養う動きの研究(1)
11. 敏捷性等を養う動きの研究(2)
12. 敏捷性等を養う動きの研究(3)
13. 敏捷性等を養う動きの研究(4)
14. 敏捷性等を養う動きの研究(5)
15. まとめ 発表会

学習課題（予習・復習）

日ごろ自分の体力を鍛えることを考え、実践する。

成績評価の方法・基準

学習態度、研究活動等総合的に判断する（出席 70%、学習成果 30%）。

テキスト・参考文献

資料等は、プリント配布する。

その他

自らの敏捷性等を養うことを行うので、体力がいる。それに耐えることのできる学生。

授業の目的

優れた児童文学作品の鑑賞と討論や、児童文学教材の製作を通して、児童文学研究の基礎力を養い。その対象となる「子ども」の理解を深める。

学生の到達目標

1. 優れた児童文学作品の鑑賞や討論、児童文学教材の製作等を通して、児童文学研究の基礎について理解する。
2. 児童文学の分野から「子ども」理解につながる課題を設定し、作品やレポートを仕上げることができる。

授業計画・学習内容

1. はじめに・・・授業のねらい・目標・内容
2. 優れた児童文学作品とは何か
3. 優れた児童文学作品の鑑賞と討論（1）
4. 優れた児童文学作品の鑑賞と討論（2）
5. 優れた児童文学作品の鑑賞と討論（3）
6. 児童文学作品をもとにした教材について
7. 教材作りの計画
8. 教材の製作（1）
9. 教材の製作（2）
10. 教材の製作（3）
11. 教材の発表
12. レポートの作成（1）
13. レポートの作成（2）
14. 今後の課題
15. まとめ

* 授業実施上の都合により、上記の計画は変更することがある。また児童文学理解や教材製作のために参考となる作品展が近隣で催される場合は、その場所へ出かけて学外で授業をしたり、設定した課題の内容によっては、学外の図書館等へ出かけて授業を行う場合もある。

学習課題（予習・復習）

紹介する参考文献、資料だけでなく、関連すると思われる文献を自ら探し読んでおくこと。また、各回の内容を自分なりに整理し、そこから生じた課題について調べたり考えたりすること。

成績評価の方法・基準

出席 20%（参加態度も含む）、課題 30%、レポート 50%、計 100%。

テキスト・参考文献

随時紹介・提示する。

その他

学外で開催される児童文学関係の研究会や作品展等にも進んで参加し、主体的に学べるように心がけてほしい。

授業の目的

1 年生で学習した「幼児体育」を基礎として、さらに、運動あそびの具体的な内容を理解し、自ら実践できるようにする。
また、それらをまとめ、保育者としてより良い指導法を見つけていく。

学生の到達目標

1. 各運動種目のあそびの内容を理解する。
2. あそびの展開の仕方、助言・助力の仕方を学ぶ。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 運動あそびの資料収集 1
3. 運動あそびの資料収集 2
4. 運動あそびの指導法(助言の仕方)
5. 運動あそびの指導法(助力の仕方)
6. 実践 1
7. 実践 2
8. 実践 3
9. 実践 4
10. 実践 5
11. 実践 6
12. 実践 7
13. 実践 8
14. まとめ
15. 発表

学習課題（予習・復習）

実践したときの、あそびの内容、子どもの様子等を記録し、まとめていく。また、常に教材研究に対して興味・関心を持つこと。

成績評価の方法・基準

授業への取り組み方 40%、レポート 60%、計 100%

テキスト・参考文献

必要に応じて資料を配布

その他

授業の目的

子どもを理解するだけでなく、子どもの世界を共に生きることはどのようなことかを実感し、実践につなげることをめざす。特に幼児の場合には、感情を共有することの重要性を理解し、感情を共有する仕方の多様性と豊かさについて理解を深める。この目的を遂行するために、付属幼稚園の子どもの活動をビデオで撮影し、全員で検討する。

学生の到達目標

1. 現実の子どもの振る舞いや表情から、子どもの内面で生じていることを捉え、その結果を言葉で表現できるようになることをめざす。
2. 一般的な子ども理解ではなく、個々の子どもの具体的なそのつどの活動から、その子どもに特徴的な側面を捉えられるようになるにはどのようなことが必要かを学ぶ。
3. 一人ひとりの子どもの「かけがえのなさ」を、当の子どもの個々の活動から実感できるようになる。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション・写真から子どもの内面を探る (1)
2. 写真から子どもの内面を探る (2)
3. 写真から子どもの内面を探る (3)
4. 付属幼稚園の見学とビデオ撮影 (一回目)
5. ビデオから子どもの内面を探る (1)
6. ビデオから子どもの内面を探る (2)
7. ビデオから子どもの内面を探る (3)
8. 付属幼稚園の見学とビデオ撮影 (二回目)
9. ビデオから子どもの内面を探る (4)
10. ビデオから子どもの内面を探る (5)
11. ビデオから子どもの内面を探る (6)
12. 付属幼稚園の見学とビデオ撮影 (三回目)
13. ビデオから子どもの内面を探る (7)
14. ビデオから子どもの内面を探る (8)
15. ビデオから子どもの内面を探る (9)

学習課題 (予習・復習)

写真やビデオから子どもの内面をゼミで探った結果を基に、各自が自分なりの言葉で記述する。各自の記述から、子どもの内面を捉える観点が多様であることを実感する。

成績評価の方法・基準

知識や理論をどれだけ多く身に着けたかではなく、従来の自分の考えや感じ方が子どもとの出会いやゼミでの検討をとおしてどれだけ変わったか、その変化をどれだけ丁寧に文章化できたか。

出席態度 20%、中間レポート (複数回) 40%、最終レポート 40%、計 100%

テキスト・参考文献

適宜紹介

その他

付属幼稚園の都合等により、見学の日時や授業計画の順序に変更が生じる可能性があることを、あらかじめ承知しておいてほしい。

授業の目的

情報化の進展や価値の多様化などにより子どもをめぐる社会的状況が加速度的に変化しつつある今日における「子ども」理解の基本的姿勢として、子どもにかかる議論や表現などの歴史的・理論的変遷を確実にふまえることを通して、保育実践の基盤を形成する基礎的方法の一端を具体的に習得する。

【主題】倉橋惣三を読む

学生の到達目標

1. 各種メディアや図書館等を活用し、研究主題に関する情報収集ができる。
2. 情報を読み、解釈し、研究主題に関する問題状況を歴史的・理論的変遷を明らかにできる。
3. 問題状況に関する議論に主体的に参加できる。
4. 主題に関する学修活動の成果を集約し、文章化できる。

授業計画・学習内容

1. 教育学的研究への案内
- 2-3. 倉橋惣三に出会う
- 4-5. 倉橋惣三はいかに論じられてきたのか
- 6-14. 各自の問題関心に基づいて資料収集・検討し、その成果を順次報告
15. まとめ

学習課題 (予習・復習)

学内・学外を問わず、日常的に接する情報を通して今日の子どもを巡る社会状況への興味・関心・問題意識を明確にしながら、授業時に提示される資料や論点を熟考し、資料に基づく客観的思考を身につけるよう努力する。

また、論文執筆の方法についての理解を深めておく。

成績評価の方法・基準

報告課題 50%、議論への参加状況 50%、計 100%。

テキスト・参考文献

参考文献：『倉橋惣三選集』、『倉橋惣三文庫』、他は随時紹介

その他

授業の目的

一心理検査（津守式乳幼児精神発達診断法）を通して、乳幼児を理解する方法を学び、検査の施行及び結果の処理、分析を通して乳幼児を客観的に理解するとはどういうことかについて学ぶ。

学生の到達目標

津守式乳幼児精神発達診断を自ら施行、処理、分析ができるようになる。

授業計画・学習内容

- 1 オリエンテーション
- 2 子どもを理解する方法
- 3 心理検査の実際 1
- 4 心理検査の実際 2
- 5 心理検査の実際 3
- 6 データ収集 1
- 7 データ収集 2
- 8 データ収集 3
- 9 データ収集 4
- 10 データ収集 5
- 11 データ処理 1
- 12 データ処理 2
- 13 データ処理 3
- 14 データ処理 4
- 15 試験及びまとめ

※なお、データ収集、データ処理に際しては、担当教員が学内外で行っている教育相談への参加を通して行うことができる。従って、随時指定時間外に補講が入ることがある。

学習課題（予習・復習）

関連する書籍、映像資料等の視聴が求められる。

成績評価の方法・基準

出席状況 30%、授業態度 30%、検査結果の導出 40%

テキスト・参考文献

- ・乳幼児精神発達診断法（0才～3才まで）津守真・稲毛教子 大日本図書（¥2,345-）
- ・乳幼児精神発達診断法（3才～7才まで）津守真・磯部景子 大日本図書（¥1,835-）

その他

2年次後期において、「卒業論文」の履修登録と卒業論文の執筆が必須となります。

授業の目的

保育に携わった歴史上の人物（日本・外国）についての研究をすることによって、様々な考え方や物の見方、ひいてはその人々の生き方に触れ、自分自身の保育観・子ども観を形成することに役立てることを目的とする。

学生の到達目標

1. 保育における多くの歴史上の人物の考え方や生き方に触れる。
2. 関心のある人物について調べてまとめ、聞き手に分かるように発表するための基礎力を養う。
3. 発表者の話を聴き、様々な見方や考え方があることを知って、自身の物の見方や考え方を構築する。

授業計画・学習内容

1. 『保育の歴史』の概観
2. 『保育に携わった歴史上の人物（日本・外国）』について調べる（1）
3. 『保育に携わった歴史上の人物（日本・外国）』について調べる（2）
4. 『保育に携わった歴史上の人物（日本・外国）』について調べる（3）
5. 『保育に携わった歴史上の人物（日本・外国）』について発表する（1）
6. 『保育に携わった歴史上の人物（日本・外国）』について発表する（2）
7. 『保育に携わった歴史上の人物（日本・外国）』について発表する（3）
8. 『保育に携わった歴史上の人物（日本・外国）』について発表する（4）
9. 『保育に携わった歴史上の人物（日本・外国）』について発表する（5）
10. 『保育に携わった歴史上の人物（日本・外国）』について発表する（6）
11. 『保育に携わった歴史上の人物（日本・外国）』について発表する（7）
12. 保育者の役割について（1）
13. 保育者の役割について（2）
14. 『保育観・子ども観』についてまとめる（記述）
15. 『保育観・子ども観』についてまとめる（発表）

学習課題（予習・復習）

保育の歴史上の人物に興味・関心をもって文献や資料を読み、まとめたり、発表したりできるようにする。

成績評価の方法・基準

出席 15%、提出物 35%、試験（レポート） 50% 計 100%

テキスト・参考文献

テキスト：汐見稔幸・大豆生田啓友 編「保育者論」 ミネルヴァ書房

その他

仲間の考えに耳を傾けて記録を取り、自分自身の考えや意見がはっきり言えるようにする。

授業の目的

日本の児童文学の古典的な作品（名作童話）や作家が、子どもたちをどのように描いてきたか、読者である子どもたちに何を期待してきたか、について学ぶ。

学生の到達目標

1. 児童文学に関する知識のほか、文献を調査し、発表資料を用意し、意見をまとめ、プレゼンテーションする方法論の初歩について学ぶ。
2. 幼児教育祭などの機会を通して、学んだことを読み聞かせなどに応用する技術についても身に付ける。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーションと発表テーマ（作家や作品）の選択
2. 発表① 質疑応答をしたり、アドバイスを受たりする
3. 発表② 質疑応答をしたり、アドバイスを受たりする
4. 発表③ 質疑応答をしたり、アドバイスを受たりする
5. 発表④ 質疑応答をしたり、アドバイスを受たりする
6. 発表⑤ 質疑応答をしたり、アドバイスを受たりする
7. 発表⑥ 質疑応答をしたり、アドバイスを受たりする
8. 発表⑦ 質疑応答をしたり、アドバイスを受たりする
9. 発表⑧ 質疑応答をしたり、アドバイスを受たりする
10. 発表⑨ 質疑応答をしたり、アドバイスを受たりする
11. 発表⑩ 質疑応答をしたり、アドバイスを受たりする
12. 実践的研究① 学んだことを読み聞かせなどに応用する
13. 実践的研究② 学んだことを読み聞かせなどに応用する
14. 実践的研究③ 学んだことを読み聞かせなどに応用する
15. まとめ

※ 授業実施上の都合により、上記の計画は変更することがある。

学習課題（予習・復習）

1. 授業は主に発表形式で行うので、発表者は事前に指示された課題についてよく学習し、授業に臨むこと
2. 全員にあらかじめ読んでおくべき童話や参考文献を指示するので、熟読しておくこと
3. 自分が発表することばかりにとらわれず、他の学生の発表についてもよく聞き、質疑応答に積極的に参加すること

成績評価の方法・基準

出席状況・授業への参加態度 20%、発表の内容 20%、レポート 60%、計 100%

テキスト・参考文献

[テキスト]

弥吉菅一 監修『新訂 児童文学 [物語編]』（森北出版）

※ 受講者決定後、著者割引で購入する。

[参考文献]

講義の都度、必要に応じて指示する。

その他

授業の目的

子どもに関する各自の興味・関心に基づいて研究テーマの設定及び必要な資料収集を行い、レポートを作成するための方法について学ぶ。

学生の到達目標

- ・子どもに関する興味・関心に基づいて研究テーマを設定する。
- ・レポート作成に必要な方法を理解する。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 自分の興味に基づいて研究テーマを考える (1)
3. 自分の興味に基づいて研究テーマを考える (2)
4. 資料・文献の検索方法について (1)
5. 資料・文献の検索方法について (2)
6. レポートのまとめ方
7. 研究テーマの決定と発表 (1)
8. 研究テーマの決定と発表 (2)
9. レポート作成のための資料収集及び執筆 (1)
10. レポート作成のための資料収集及び執筆 (2)
11. レポート作成のための資料収集及び執筆 (3)
12. レポート作成のための資料収集及び執筆 (4)
13. レポートの発表 (1)
14. レポートの発表 (2)
15. レポート提出

学習課題（予習・復習）

自分の興味・関心を大切に、問題意識を持って授業に参加すること。

成績評価の方法・基準

出席状況及び授業態度 30% レポート 70% 計 100%

テキスト・参考文献

授業の中で必要な資料・参考文献等の紹介をする。

その他

授業実施上の都合により、授業の内容・順番・進度を変更することがある。

授業の目的

様々な造形素材を体験、研究しながら、子どもが、目を輝かせて遊ぶ「かたち」や「色」を追求し、各自がより興味のある課題に取り組む。制作演習においては、発想やプロセスを重視し、作品を作るときの「心のうつろい」を大切にする。各自保育の現場で応用できる作品の完成を目指し、素材の資料探しをはじめ、創意工夫をしながら制作を行なう

学生の到達目標

「創作することの楽しさ」、「表現することの素晴らしさ」などを体感し、子どもの喜びに共感できる感性豊かなこころ豊かな保育者としての感性を身につけることをねらいとする。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. テーマや自然素材についてディスカッションする
3. 子どもと素材の研究① やわらかい素材で作る
4. 子どもと素材の研究② やわらかい素材で作る
5. 子どもと素材の研究③ かたい素材で作る
6. 子どもと素材の研究④ かたい素材で作る
7. 子どもと素材の研究⑤ モビールを作る
8. 子どもと素材の研究⑥ モビールを作る
9. 子どもと素材の研究⑦ モビールを作る
10. 子どもと素材の研究⑧ お菓子の家を作る
11. 子どもと素材の研究⑨ お菓子の家を作る
12. 作品制作の実践①
13. 作品制作の実践②
14. 作品制作の実践③
15. 総括 子どもの造形活動へのアプローチ

学習課題（予習・復習）

受身の学習姿勢から脱却し、自ら進んで保育者としての資質や能力を高めようとする主体性を重視した取り組みを進める。

成績評価の方法・基準

出席状況 10%、授業参加状況、制作過程 30%、提出作品 60%、計 100%

テキスト・参考文献

関連資料は適宜配布します。

その他

- ・本シラバスは授業内容の予定を記したものであるが、授業の進捗状況や制作の進度に合わせて、授業計画の変更、追加等が発生する場合がある。
- ・若干の材料費が必要となる。
- ・創ることが大好きな学生が受講してくれることを望む。

授業の目的

テーマ：「乳幼児の発達と保育の関わり」

乳幼児の発達を理解し、その健全な成長、発達に対する関わりについて、乳幼児－保育者の関係性という観点からテーマを選択し、各グループでそのテーマに取り組み、文献調査やフィールドワークに基づいて資料作成と発表を行い、保育者として乳幼児の発達に関する自らの視点が持てるようになることを目標とする。

学生の到達目標

1. 保育者として現代社会における乳幼児の発達における課題や問題を捉え、探求することができる能力を養う。
2. グループでの共同作業を通して、資料作成やフィールドワークなどの調査・研究を進めることができる。
3. パワーポイントなどを用いて、調査研究の発表をする能力を習得するとともに、全体討議を通じて、考察を深める。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 調査・研究についての基本的な方法について
3. 現代社会における乳幼児の発達に関する課題及び問題点について(1)
4. 現代社会における乳幼児の発達に関する課題及び問題点について(2)
5. 乳幼児－保育者の関係性発達について(1)
6. 乳幼児－保育者の関係性発達について(2)
7. グループワーク(1) 文献調査、フィールドワーク等
8. グループワーク(2) 文献調査、フィールドワーク等
9. グループワーク(3) 文献調査、フィールドワーク等
10. 中間発表
11. プレゼンテーション資料作成(1)
12. プレゼンテーション資料作成(2)
13. 成果発表
14. 成果発表に基づく全体討議と発表内容のシェアリング
15. まとめ

学習課題（予習・復習）

乳幼児の発達と保育の関連について、自らの体験やメディア等の情報も含めて、問題意識を持ち、テーマに関する事項についてまとめておく。また、調査・研究、資料作成の方法についての理解を深めておく。

成績評価の方法・基準

授業・議論への参加状況 30%、研究成果 70%、計 100%。

テキスト・参考文献

使用しない。毎回資料を配布又は、提示する。

その他

授業内容に関する積極的な質問や議論を歓迎する

授業の目的

基本テーマ：「子どもとメディア」「子どもと自然科学」

基本テーマに即した2回のワークショップを通じて、「子どもの研究Ⅱ」における課題を見出すきっかけと、ゼミ生相互の理解を深め、最適なテーマとグループを設定していただくとともに、コンピュータを積極的に活用し、利用技能を磨いていただく。また、適時、早稲田大学（人間科学部）および名古屋大学（文化情報学部）とTV会議システムを通じた、3大学間遠隔ゼミ交流を行い、地域や専攻の異なった大学間の学びや研究について知るとともに、交流を深め見識を広めていただく。

学生の到達目標

- ・「子どもとメディア」では、近年劇的に変化した、子どもを取り巻くメディア（TVアニメ、電子玩具、エデュテインメントなど）環境について研究する。または、子供向けメディア作品を制作する。きっかけとして「クレイアニメ制作」のワークショップを通じ、メディア製作者側の視点を体得する。
- ・「子どもと自然科学」では、子どもがもつ「なぜ・どうして」の疑問に対し、わかりやすくかつ科学的に正しいアプローチで疑問に答える指導術を研究する。または、子供向けサイエンスショーを企画する。きっかけとして「自然科学探求」のワークショップを通じ、子どもの頃の好奇心や探究心を思い出していただく。
- ・他大学の学生に、自らの学びや制作作品を発表できるとともに、他大学の学びや研究内容を知り、見識を広めていただく。

授業計画・学習内容

- 1 オリエンテーション（ゼミの方針と研究の進め方、及びグループ分けについて）
- 2 クレイアニメ制作①（代表作のメイキングビデオなどを活用し、クレイアニメの製作過程を理解）
- 3 クレイアニメ制作②（素材選び、構想、絵コンテ、タイミングチャートなど）
- 4 クレイアニメ制作③（ねんど作りと撮影及び編集）
- 5 クレイアニメ制作④（撮影及び編集）
- 6 クレイアニメ制作⑤（アテレコ及び編集）
- 7 クレイアニメ制作⑥（作品発表および批評）HTML レポート化
- 8 自然科学探求①（子どもに好奇心や感動を与える実験例の紹介）
- 9 自然科学探求②（子どもの疑問を解決する科学実験計画）
- 10 自然科学探求③（子どもの疑問を解決する科学実験および記録）
- 11 自然科学探求④（発表および批評）HTML レポート化
- 12 先行研究調査法と作品応募について
- 13 研究計画または作品コンセプトの設定（グループの最終決定と課題テーマの設定）
- 14 研究計画または作品コンセプトの発表
- 15 幼児教育祭での作品発表準備（研究計画書提出）

本ゼミでは、「子どもの研究Ⅱ」において、研究活動か作品制作活動のどちらかを選択し、グループで取り組んでいただく。（研究活動を行う場合、その内容は、必ずしも上記の基本テーマにそわなくてもよく、むしろ多様な問題意識をもつ学生を歓迎する。）

学習課題（予習・復習）

ワークショップのグループは3～4人を基本とし、グループ内で仕事のかたよりがないよう留意し、効率よく作業分担する。研究や作品製作グループは、2～3人を基本とし、共同作業であることに十分留意し、グループ内でよく議論・合議の上にテーマを設定する。

（事前に <http://yatagai.jp/> にて、先輩の作品や研究成果を確認しておくこと。）

成績評価の方法・基準

ワークショップにおける制作活動を通じて、発見・習得した知識や技能に応じて評価する（70%）。研究計画または作品コンセプトの内容を客観的に評価する（30%）。

テキスト・参考文献

適時留意する。

その他

適時、早稲田大学および名古屋大学との遠隔ゼミ交流を行うとともに、年1、2回3大学間の直接交流を実施する。よって、授業時間以外や午後にもこれらの活動に積極的に取り組めることが望ましい。

また、子どもの研究Ⅰの活動を通じて、一生の友を見いだしていただくことを願う。

授業の目的

今後の保育実践に向けて、子どもについての理解や保護者との関係など、子どもを取り巻く環境・関係についての理解を深めることを目的とする。

自分が興味を持つ子どもに関する文献や記事などを紹介し合うこと、ビデオ視聴や実際に子どもとかわるることによって、理解を深め、援助を考えていきたい。

また、「子どもの研究Ⅱ」では、自分の関心のあるテーマについてレポートを作成するため、そのテーマ決定への方向付けを行いたい。

学生の到達目標

- ・ 子どもを取り巻く様々な事象に興味を持つ。
- ・ その興味に基づき、援助を考える。
- ・ 保護者支援について関心を持ち、自分なりの援助の仕方を考える。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 文献・論文を紹介しあう（1）
3. 文献・論文を紹介しあう（2）
4. 文献・論文を紹介しあう（3）
5. 事例から学ぶ（1）
6. 事例から学ぶ（2）
7. 事例から学ぶ（3）
8. 事例から学ぶ（4）
9. 事例から学ぶ（5）
10. 事例から学ぶ（6）
11. 実際に子どもとかわる（付属幼稚園にて）
12. レポート作成（1）
13. レポート作成（2）
14. レポート作成（3）
15. レポート提出・口答試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

- ・ 子どもに関するテーマで、興味を持った文献・論文等探す。
- ・ ゼミレポートを作成するためのテーマを考える。
- ・ 自分のテーマを決め、子どもの観察を行い、レポートを作成する。

成績評価の方法・基準

授業の出席態度(20%)、文献紹介など自分の役割を果たす(20%)、レポート(50%)、口頭発表(10%)、計100%

テキスト・参考文献

必要時提示する。

その他

「子どもの研究Ⅱ」のゼミレポート作成に向け、自分のテーマを決めること。また、授業計画を目安に余裕を持って進め、今後の実践に生かせるように主体的に取り組むこと。

授業の目的

子どもに関する諸研究領域の中で、特に保育の環境構成、および保育者の遊びへの援助に関して理解を深める。

学生の到達目標

関連領域の本の講読、保育実践の観察を通して、遊びを中心とした保育の意義と方法について理解を深める。

授業計画・学習内容

- 1 オリエンテーション
- 2 基礎文献や資料の講読
- 3 基礎文献や資料の講読
- 4 基礎文献や資料の講読
- 5 映像資料の分析と考察
- 6 保育記録の書き方
- 7 付属幼稚園見学
- 8 基礎文献や資料の講読
- 9 基礎文献や資料の講読
- 10 基礎文献や資料の講読
- 11 映像資料の分析と考察
- 12 保育記録の書き方
- 13 付属幼稚園見学
- 14 レポート発表
- 15 レポート発表

学習課題（予習・復習）

講義形式の授業や、グループ作業形式の授業の中だけでは追求しにくい、個人の関心を深める楽しさ、仲間と勉強することの楽しさを感じてほしいと思います。

成績評価の方法・基準

- 出席態度 40%
レポート 40%
その他提出物 20%

テキスト・参考文献

「遊びを中心とした保育」河邊貴子 萌文書林

その他

授業の目的

現代の子どもと家庭をめぐる生活問題や社会問題の実態を知る。それらの問題に対する具体的対応と課題について検討する。保育者としてできることや他職種との連携を意識して学習する。子ども家庭福祉分野及び関連分野の問題と課題を理解した後、それぞれが関心を持つテーマについて文献を収集し、まとめたものを発表する。

学生の到達目標

1. 文献を批判的に読むことができる。
2. 読んだ文献について意見を述べるができる。
3. 自分の興味・関心を明確にし、文献収集ができる。
4. レポートを作成し、発表ができる。

授業計画・学習内容

- 1 オリエンテーション
- 2 研究分野の共通理解
- 3 文献を読む、意見交換
- 4 文献を読む、意見交換
- 5 文献を読む、意見交換
- 6 文献を読む、意見交換
- 7 レポートの書き方
- 8 テーマ決定、報告
- 9 発表に向けてレポート作成
- 10 発表に向けてレポート作成
- 11 発表に向けてレポート作成
- 12 レポートの発表
- 13 レポートの発表
- 14 レポートの発表
- 15 まとめ

学習課題（予習・復習）

毎回の学習内容を整理・確認し、自己の興味・関心に引きつけていく。

成績評価の方法・基準

授業態度 50%、提出物 50%、計 100%。

テキスト・参考文献

文献コピー、その他資料を随時配付する。

その他

読むこと・書くこと・発表することは訓練により上達します。ゆっくり少しずつでいいので、積極的に楽しく取り組んでいきましょう。

授業の目的

保育現場では、子どもたちの日常生活における、あらゆる動作に音楽を取り入れ、共に歌い、動いたりしながらコミュニケーションをとることによって、子どもたちの感性、創造性、協調性を養うことが必要である。そういった上で、保育者としてどのようにして音楽と関わっていくかを習得する。

また、声を使うことの多い保育現場において、喉を酷使しない発声法を習得する。

学生の到達目標

- 1、 幼児がよく知っている歌や物語（絵本や紙芝居など）を収集し、物語に音楽をつけたり、歌に紙芝居をつけたりして、表現の幅を広げる。
- 2、 表現に必要な、呼吸や間のとり方などを身につける。

授業計画・学習内容

- 1、 オリエンテーション
- 2、 保育現場で用いられる音楽の特徴について
- 3、 子どもと音楽について 1
- 4、 子どもと音楽について 2
- 5、 子どもの動作を促す音楽について 1
- 6、 子どもの動作を促す音楽について 2
- 7、 楽譜について 1
- 8、 楽譜について 2
- 9、 子どもと音楽表現について 1
- 10、 子どもと音楽表現について 2（資料収集）
- 11、 子どもと音楽表現について 3（自主課題）
- 12、 子どもと音楽表現について 4（自主課題）
- 13、 成果発表
- 14、 成果発表と反省
- 15、 まとめ

学習課題（予習・復習）

音楽から受ける印象、心の動きを大事にする。

成績評価の方法・基準

授業態度 50%、研究成果 50%、計 100%

テキスト・参考文献

随時配布します。

その他

授業の目的

自らの身体を使ってのびのびと表現する子ども、それを受け取る柔軟な感性とやわらかなところをもつ 保育者との身体を通じたコミュニケーションは、子どもとの繋がりを実感できる豊かな活動です。

この授業では、子どもに関する研究の中でも身体表現について考えていきます。関連する文献、資料を読み取りながら、幼児の身体表現についての理解を深めると共に、自分の身体に意識を向けていく実践を行いたいと思います。

学生の到達目標

ねらいに沿って、課題意識を持ち、作品やレポートを仕上げる過程の中で、身体表現についての理解を深めることを目標とします。

授業計画・学習内容

- 1 オリエンテーション
- 2 子どもの身体表現について（資料読解）
- 3 文献、資料を読む①
- 4 身体表現遊び
- 5 身体表現遊び
- 6 まとめ
- 7 からだでコミュニケーション実践①
- 8 からだでコミュニケーション実践②
- 9 からだでコミュニケーション実践③
- 10 文献、資料を読む②
- 11 からだでコミュニケーション実践④
- 12 からだでコミュニケーション実践⑤
- 13 発表会
- 14 7～13を振り返ってのディスカッション
- 15 まとめ

学習課題（予習・復習）

子どもの身体表現について日頃から興味を持って欲しいと思います。表現活動が好きで、意欲的に取り組む事ができる学生の参加をのぞみます。

成績評価の方法・基準

学習態度、出席状況（60%）レポートの内容（40%）から総合的に評価します。

テキスト・参考文献

随時提示します。

その他

授業の目的

子どもの造形表現活動を援助するために、基礎から応用へと進んだ技術技法を習得し、各自が得意とする造形分野を専門的に行っていくことで、造形表現活動に対する明確な意図をもつことをねらいとする。また、教育の現場で実践できる教材の研究・制作を行っていくことを目的とする。

学生の到達目標

1. 造形活動の基礎から応用の技術技法を習得する。
2. 得意とする造形分野を確立する。
3. 各自が考えた教材の研究・制作。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 素材の研究 (1)
3. 素材の研究 (2)
4. 素材の研究 (3)
5. 素材の研究 (4)
6. 素材の研究 (5)
7. 素材の研究 (6)
8. 素材の研究 (7)
9. 素材の研究 (8)
10. 素材の研究 (9)
11. 教材研究 (1)
12. 教材研究 (2)
13. 教材研究 (3)
14. 教材研究 (4)
15. 総評

学習課題 (予習・復習)

・イラストや写真など、制作のための資料を準備します。

成績評価の方法・基準

出席状況、参加状態 50%、提出作品 50%、計 100%

テキスト・参考文献

- ・資料などを必要に応じて掲示または配布します。
- ・課題の予習や復習に適している文献などを適宜紹介します。

その他

絵の具などを使用するため、汚れても良い服装およびエプロンを用意して下さい。

授業の目的

伝承遊びや伝承玩具（手まり・けん玉・お手玉・あやとり・ビー玉・おはじき・コマ・竹とんぼ等）がどのように生まれ、受け入れられ、変化してきたか、について学ぶ。学んだ成果は、幼児教育祭で発表したり、子どもと一緒に実践したりする。

学生の到達目標

1. 基礎的な知識を学ぶとともに、伝承玩具を使いこなしたり製作・加工したりできる技能を身に付ける。
2. 文献を調査し、発表資料を用意し、意見をまとめ、プレゼンテーションする方法の基礎を習得する。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーションと講義 日本の子どもの伝承遊び・伝承玩具と世界
 2. 発表① 調べたことを発表したあと、質疑応答をしたり、アドバイスを受けたりする
 3. 発表② 調べたことを発表したあと、質疑応答をしたり、アドバイスを受けたりする
 4. 発表③ 調べたことを発表したあと、質疑応答をしたり、アドバイスを受けたりする
 5. 発表④ 調べたことを発表したあと、質疑応答をしたり、アドバイスを受けたりする
 6. 製作① 手作り玩具
 7. 発表⑤ 調べたことを発表したあと、質疑応答をしたり、アドバイスを受けたりする
 8. 発表⑥ 調べたことを発表したあと、質疑応答をしたり、アドバイスを受けたりする
 9. 発表⑦ 調べたことを発表したあと、質疑応答をしたり、アドバイスを受けたりする
 10. 発表⑧ 調べたことを発表したあと、質疑応答をしたり、アドバイスを受けたりする
 11. 製作②：手作り玩具
 12. レポート指導とまとめ
 13. 幼児教育祭の準備・リハーサル
 14. 幼児教育祭での発表・実践①
 15. 幼児教育祭での発表・実践②
- ※ 授業実施上の都合により、上記の計画は変更することがある。

学習課題 (予習・復習)

1. グループ別に課題を与えるので、発表者は事前に指示された課題についてよく学習し、授業に臨むこと
2. 自分の発表ばかりにとらわれず、他の学生の発表についてもよく聞き、質疑応答に積極的に参加すること
3. 伝承玩具の使いこなし方について、授業時間外にも練習を重ねておくこと

成績評価の方法・基準

出席状況や授業への参加態度 20%、発表や製作物の内容 20%、レポート 60%、計 100%

※ 授業への参加態度が著しく不良な場合は、上記の割合によらず、不合格とすることがある。

テキスト・参考文献

必要に応じて、その都度、指示する。

その他

幼児教育祭への参加を通して、受講者全員で協力しながら所期の目標を達する力量を身につけることが期待される。出席状況や授業への参加態度には、幼教祭への取り組み状況を含む。

授業の目的

テーマ：「乳幼児の関係性発達」

乳幼児の発達を養育者、保育者、仲間等との関係性の観点から理解し、周囲との関わりの中で成長、発達していくプロセスについて把握する。幼稚園での実際の乳幼児の様子を観察し、VTRによる観察記録を視聴し、乳幼児と保育者の相互交渉の関係性の中で生じる変化のプロセスについて互いに意見交換を行い、関係性発達への具体的な理解を深める。また、自らが保育者となった時に、乳幼児の発達を関係性の視点から捉えることができるようになることを目標とする。

学生の到達目標

1. 乳幼児の発達の变化的変化を観察し、把握する能力を養う
2. 乳幼児の発達を関係性の視点から捉えることができるようになる。
3. グループでの共同作業を通して、資料作成やフィールドワークなどの調査・研究を進めることができる。
4. パワーポイントなどを用いて、調査研究の発表をする能力を習得するとともに、全体討議を通じて、考察を深める。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
 2. 調査・研究についての基本的な方法について
 3. 乳幼児－養育者の関係性発達について
 4. 乳幼児－保育者の関係性発達について
 5. 乳幼児の仲間関係の発達について
 7. グループワーク (1) 文献調査、フィールドワーク等
 8. グループワーク (2) 幼稚園での乳幼児観察及びVTR記録
 9. グループワーク (3) 幼稚園での乳幼児観察及びVTR記録
 10. 幼稚園での観察記録やVTR資料に基づく意見交換
 11. プレゼンテーション資料作成 (1)
 12. プレゼンテーション資料作成 (2)
 13. 幼児教育歳の準備・リハーサル
 14. 幼児教育歳での発表・実践①
 15. 幼児教育歳での発表・実践②
- * 授業実施上の都合により、上記の計画は変更することがある。

学習課題（予習・復習）

1. グループ別に課題を与えるので、発表者は事前に指示された課題についてよく学習し、授業に臨むこと
2. 自分の発表ばかりにとらわれず、他の学生の発表についてもよく聞き、質疑応答に積極的に参加すること
3. 乳幼児の発達と保育の関連について、自らの体験やメディア等の情報も含めて、問題意識を持ち、テーマに関する事項についてまとめておくこと。

成績評価の方法・基準

授業・議論への参加状況 30%、研究成果 70%、計 100%。

テキスト・参考文献

使用しない。毎回資料を配布又は、提示する。

その他

授業内容に関する積極的な質問や議論を歓迎する

授業の目的

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』に示される、保育内容 5 領域のうちの領域「人間関係」について学ぶ。

人は人との関係の中で生きている。子どもにとって初めての集団生活である幼稚園・保育所、そして家族に並ぶほど親密なかかわりを持つ保育者が、子どもの人間関係力形成に与える影響は大きい。このような点からも、領域「人間関係」の重要性を認識し、子どもの育ちを支える保育者としての役割や、保育のあり方について理解を深めたい。

学生の到達目標

- ・現代の子どもにおける人間関係の実態や問題を踏まえ、領域「人間関係」の重要性を理解する。
- ・『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』に示される、領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。
- ・子どもの人間関係の発達を理解し、保育のねらいや援助を考える。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション・子どもを取り巻く環境と人間関係 (1)
2. 子どもを取り巻く環境と人間関係 (2)
3. 幼稚園教育要領・保育所保育指針と領域「人間関係」(1)
4. 幼稚園教育要領・保育所保育指針と領域「人間関係」(2)
5. 幼稚園教育要領・保育所保育指針と領域「人間関係」(3)
6. 人とかかわる力の発達の基礎 (1)
7. 人とかかわる力の発達の基礎 (2)
8. 人とかかわる力の発達の様相 (1)
9. 人とかかわる力の発達の様相 (2)
10. 保育の中で育つ人とかかわる力 I (1)
11. 保育の中で育つ人とかかわる力 I (2)
12. 保育の中で育つ人とかかわる力 II (1)
13. 保育の中で育つ人とかかわる力 II (2)
14. 保育者を取り巻く人間関係
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

- ・授業内容についてのまとめを書き、提出する。
- ・授業で指示された課題に取り組む。

成績評価の方法・基準

授業態度 (20%)、試験 (60%)、提出物・課題 (20%)、計 100%

テキスト・参考文献

『保育実践を支える 人間関係』 成田朋子・小澤文雄・本間章子編著 福村出版
『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』

その他

- ・テキスト等授業に必要なものを毎回持参すること
テキストを持参しない場合は、出席を認めない場合があります。
- ・配布された資料等整理し、保管すること
- ・自分なりに重要な点を整理し、記すこと
- ・授業内容は変更する可能性があります

授業の目的

「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」には、乳幼児期の体験が小学校以降の教育の基礎になると位置づけられている。そして、乳幼児期に自然や様々なものにじっくり触れて、感じたり、考えたり、探したり、試したりなどの体験を通して、その特性や意味について友達や保育者と共に語り合いながら、さらに体験を積み重ねていくことが生きる力や学びの基礎になるとされている。そうした豊かな体験の積み重ねができるようにするためには、保育所や幼稚園がどのような保育を展開していけばよいのかについて学ぶことを目的とする。

学生の到達目標

1. 領域「環境」のねらい・内容を理解する。
2. 子どもが「環境とかかわること」について、多面的に理解する。
3. 「環境とかかわる力」を育てるための保育者の役割について分かる。

授業計画・学習内容

1. 保育の基本と保育内容
2. 領域「環境」とは
3. 「環境とかかわる力」と発達（生活）
4. 「環境とかかわる力」と発達（遊び）
5. 「環境とかかわる力」と発達（人とかかわり）
6. 「環境とかかわる力」と発達（保育環境）
7. 「環境とかかわる力」の理解
8. 領域「環境」と保育方法(1)
9. 領域「環境」と保育方法(2)
10. 領域「環境」と保育の実際(1)
11. 領域「環境」と保育の実際(2)
12. 領域「環境」と実践上の留意点
13. 領域「環境」の変遷(1)
14. 領域「環境」の変遷(2)
15. 領域「環境」のまとめ

学習課題（予習・復習）

- ・わからないことや疑問に思ったことがあれば、その場で尋ねたり、一緒に考えたりして、その場で解決する。

成績評価の方法・基準

- ・領域「環境」のねらい・内容を理解したか。
- ・子どもが「環境とかかわること」についての多面的な理解をしたか
- ・「環境とかかわる力」を育てるための保育者の役割について理解したか。
- ・欠席をせずに、熱心に授業に取り組むことができたか。
- ・求められた課題や提出物を期限までに提出できたか。

出席 15%、提出物 10%、受講態度 5%、試験 70% 計 100%

テキスト・参考文献

テキスト：森上史朗他編 最新保育講座 保育内容「環境」
ミネルヴァ書房

参考文献：「保育所保育指針解説書」・「幼稚園教育要領解説」
フレーベル館

その他

- ・課題、もしくは話し合いの結果をまとめたものなどを授業後に提出する場合があります。
- ・配布したレジュメや資料は、自分なりに工夫して保存する。

授業の目的

どのような保育の「環境」が幼児の育ちにどのような関係があるか、ということ学ぶこと目的とする。幼児は「環境」を通して、自らの生活や遊びを広げ深めながら育つ。そのために、保育者は子どもの育ちがより豊かになるように、園内外の自然や身近なもの、社会的な出来事や行事などを含めた「環境」を、構成し工夫する必要がある。

学生の到達目標

幼児が育つ「環境」について理論的、実践的に理解する。そして、幼児と環境とのかかわりを的確に理解し、見通しをもって援助できるようになることを目指す。

授業計画・学習内容

- 1 回 オリエンテーション・子どもと環境
- 2 回 領域「環境」のねらい
- 3 回 環境と保育者の役割
- 4 回 幼児期の環境教育
- 5 回 領域「環境」の指導計画と作成
- 6 回 命を大切に教育について
- 7 回 植物に関わる活動
- 8 回 小動物に関わる活動
- 9 回 園外保育について
- 10 回 自然現象に関わる活動
- 11 回 物に関わる活動
- 12 回 数量・図形に関わる活動
- 13 回 標識・文字に関わる活動
- 14 回 行事や記念日安全に関わる活動
- 15 回 試験およびまとめ

学習課題（予習・復習）

教室内で子どもと環境について考えるだけでなく、普段から、身のまわりの子どもの姿、季節ごとの自然や人々の様子などに関心をもって目を向けるために、授業に積極的に参加すること。また、テキストは事前に読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

出席態度 30% 小レポート 20% 試験 50% 計 100% を総合的に評価します

テキスト・参考文献

『子どもと環境』同文書院 田尻由美子

その他

授業の目的

幼児教育のなかで、言葉についての教育は重要な位置をしめている。それは「領域（言葉）」だけにとどまらず、子どもの人格形成に大きく影響を及ぼすものである。幼児に対する言葉の指導は、したがって意図的に積極的に考えられなくてはならないが、その鍵をにぎるのは、幼児を取りまく指導者である。

幼児に対する言葉の指導について、その理論的な背景とともに、具体的な働きかけを学ぶとともに、子どもたちと時間を共にし、楽しいと感じることのできる保育者を目指し、実践的に学ぶ。

学生の到達目標

1. 保育内容（言葉）の背景にある理論を基盤にし、乳幼児の言葉の獲得の過程を理解する。
2. 保育現場で乳幼児の言葉に接したり、問題を見つけたりしたときに、発達観点から意味づけ、説明でき、対応できるような基礎能力を習得する。
3. 乳幼児の言葉の発達を支援できる、基礎的な技術を習得する
4. 理論を踏まえてどのような実践が行われているのかを知り、自らの実践に活かすことのできる力を習得する。

授業計画・学習内容

1. 子育ては言葉の教育から（オリエンテーション）
2. 領域「言葉」の内容の把握① 言葉獲得に関するねらい
3. 領域「言葉」の内容の把握② 内容（10項目）
4. 言葉獲得のメカニズム 母親と新生児とのかかわり
5. 言葉獲得のメカニズム 新生児との共有関係の成り立ちと対話の構造
6. 言葉獲得のメカニズム コミュニケーションの意図と協約性
7. 言葉獲得のメカニズム 行動による対話および象徴機能の発達とことば
8. 言葉獲得のメカニズム 3歳児の発達上の特徴と語彙の量、質の中味
9. 言葉獲得のメカニズム 4歳児の形態上の特徴と言語環境
10. 言葉獲得のメカニズム 5歳児の形態上の特徴と言葉遊び
11. 乳幼児が獲得する言葉を豊かにする媒体① 絵本、紙芝居など
12. 乳幼児が獲得する言葉を豊かにする媒体② 読み聞かせ
13. 乳幼児が獲得する言葉を豊かにする媒体③ 言葉の聞き分け
14. 乳幼児が獲得する言葉を豊かにする媒体④ 言葉遊び
15. まとめ

学習課題（予習・復習）

- ・紹介する資料や参考文献（含 絵本）などを積極的に読み、自分なりの考えをまとめておくこと。
- ・授業のなかでいくつかの事例を紹介するので、理論と共にその実際について、しっかりと身につけておくこと。
- ・図書館などで、一冊でも多くの絵本に目を通し、親しんでおくこと。

成績評価の方法・基準

- ・出席20%、ノート作成20%、筆記試験60%、計100%
- ・授業への参加態度（積極的な発言等）なども考慮して、総合的に評価する。

テキスト・参考文献

- ・決められたテキストは使用しない。
- ・学習内容に基づき、随時資料をプリントして配布したり、参考文献を紹介したりする。

その他

- ・毎時間、授業感想をもとにした「授業のまとめ」を書き提出する。
- ・座席を指定する。

授業の目的

各園により多様な保育が行われている現状においては、保育者として実践の場に立った時どのような保育をすることが本当にいいのかとまどうことが多い。どんな状況や場面でも、こどもの生き生きとした姿に出会えるよう常に保育のあり方を工夫する意欲をもって実践してほしい。そのための保育の基本と実際の保育指導案作成方法を学ぶ。

学生の到達目標

1. 遊びの大切さや主体的に行動するおもしろさなど、さまざまな事例を通してこどもを見る目を育てる。
2. 授業で学んだことを基に自分なりの保育を工夫する。
3. 指導計画の基本的構造を理解し立案できるようにする。

授業計画・学習内容

1. 保育方法の基本
2. 乳幼児の理解と保育方法
3. 環境による保育
4. 遊びによる総合的指導
5. 保育における個と集団
6. こどもにふさわしい園生活の展開
7. 発達の時期に応じた保育のあり方
8. 保育の計画と実践①
9. 保育の計画と実践②
10. 保育の計画と実践③
11. 行事を生かした保育の展開
12. 家庭・地域・小学校との連携を生かした保育
13. さまざまな工夫がみられる保育
14. 保育者の成長と保育実践の深まり
15. まとめと試験

学習課題（予習・復習）

- ・授業で学んだ箇所についてテキストをしっかりと復習する。
- ・課題に真剣に取り組む。

成績評価の方法・基準

出席状況・授業態度30% 試験及びまとめ50%
提出物20% 計100%

テキスト・参考文献

新・保育講座『保育方法・指導法の研究』
森上史朗他編 ミネルヴァ書房

その他

- ・テキストは毎回必ず持参する。
- ・グループ討議や課題には積極的に参加する。

授業の目的

幼稚園教諭免許取得のための3週間の観察・参加実習に重点をおいた授業である。事前・事後指導を含めて、実習の最終的な役割をこなす。3週間の幼稚園実習に向けて、これまで学んだ知識や技術を最大限に生かすことをねらいとする。

学生の到達目標

- ・幼稚園の特徴や幼稚園教諭の仕事について、より実践的に理解する。課題の作成、指導案の準備を通して、子どもへの理解、保育の内容や
- ・方法に対する理解、指導計画の意味、教材の研究、保育者の仕事について理解を深める。
- ・実習後は、実習の振り返りを行うことで、保育所実習に向けて新たな課題を見出し、保育者を目指す。

授業計画・学習内容

- 1 幼稚園教育実習の概要を理解する
- 2 幼稚園教育実習の目的と内容、幼稚園教育実習の日程を把握する
- 3 実習に向けての課題を作成する
- 4 実習記録の意義や書き方について理解する
- 5 事前訪問の意義、内容と方法を理解する
- 6 訪問指導のための準備をする
- 7 教材の研究・準備をする
- 8 指導案を作成する
- 9 指導案や事前訪問後の書類を作成する
- 10 実習にあたっての心構えや守秘義務について理解する
- 11 実習中の手続きを把握する
- 12 実習終了後の手続きを理解する
- 13 実習の報告と反省をする
- 14 評価を確認し、今後に向けての新たな課題を考える
- 15 保育の魅力を再発見し、私らしい保育者を目指す（まとめ）

学習課題（予習・復習）

- ・毎回授業で学んだことを「大学でのオリエンテーションの記録」に記入し、これを提出する。やむなく欠席する場合、不足分を補い、次の週の授業までに提出する
- ・事前に必要な書類を作成し、決められた期限内に提出する
- ・実習に使用する教材について研究や準備を行う
- ・実習終了後は振り返りを行い、3年次に行う保育所実習に向けての課題や保育者になるにあたっての課題について考える。

成績評価の方法・基準

実習園の評価 70%、出席・授業態度・提出 30%、計 100%

テキスト・参考文献

実習の手引き

保育の計画と方法 同文書院

幼稚園教育要領解説 フレーベル館

保育所保育指針解説書 フレーベル館

保育・子育てQ&A 田邊光子他編 ひかりのくに

保育・教育実習から学ぶ 愛智出版

みんなで手遊び One・two・トン ドレミ楽譜出版社

その他

- ・実習に関する記録や書類は、読む人に分かるように書き、ファイルに綴じて整理する
- ・授業内容を十分把握して事前の準備をするため、授業は欠席しないようにする
- ・提出物の期限を守り、担当者との連絡を密にして、万全の準備を整えて実習に臨む

授業の目的

保育所という施設の特徴、乳幼児の生活や遊びの姿、保育者の仕事や乳幼児に対するかかわりなど、保育実践の実際について、講義や演習を通して理解することをねらいとする。また、実習の目的、実習の流れについて概説するとともに、実習記録や提出書類の書き方や具体的な教材研究を、授業の中で実際に行いながら実践への準備を目指す。

学生の到達目標

1. 保育所の特徴や保育者の仕事について理解する。
2. 課題の作成、指導案の準備を通して、子どもへの理解、保育の内容や方法に対する理解、指導計画の実際、教材研究、保育者の仕事について理解を深める。
3. 実習後は、実習の振り返りを行うことで、新たな課題を見出し、保育者を目指す。

授業計画・学習内容

1. 実習の手続きについて理解する（事前訪問・訪問指導）
2. 具体的な子どもの姿をイメージして実習記録の作成を試みる
3. 教材研究
4. 具体的な子どもの姿をイメージして指導案の作成を試みる（1）
5. 具体的な子どもの姿をイメージして指導案の作成を試みる（2）
6. 保育所実習最終ガイダンス
7. 実習で学んだことを整理する（1）
8. 実習で学んだことを整理する（2）
- 9～13 保育者を目指して（1）～（5）（演習）
14. 実習の評価をもとに、今後の課題を明確にする
15. 自分が考える保育者の魅力についてまとめる

学習課題（予習・復習）

- ・毎回授業で学んだことを「大学でのオリエンテーションの記録」に記入し、提出する。やむなく欠席の場合は、不足を補い、次の週の授業までに提出する。
- ・事前に必要な書類を作成し、決められた期限内に提出する。
- ・実習（実践）に使用する教材について研究や準備を行う。
- ・実習終了後は振り返りを行い、保育者になるにあたっての課題について考える。

成績評価の方法・基準

実習園の評価 70%、出席・授業態度・提出物 30%、計 100%

テキスト・参考文献

- 「保育・教育実習から学ぶ（第2版）」 愛智出版
「保育・教育実習を深める」 愛智出版
「保育の計画と方法（第2版）」 同文書院
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」 フレーベル館
「実習の手引き」

その他

- ・実習に関する記録や書類は、読む人に分かるように書き、ファイルに綴じて整理する。
- ・授業内容を十分把握して事前の準備をするために、授業は欠席しないようにする。
- ・提出物の期限を守り、授業担当者との連絡を密にして、万全の準備を整えて実習に臨む。

授業の目的

保育所実習をより深く学ぶための科目である。保育実習での学習をもとに、主体的に保育の計画を立て、実施することを目指す。研究保育や一日、半日等の責任実習に向けて、子ども理解の方法や指導案作成の実際について学ぶ。

また、家庭と地域の生活実態にふれて、保護者への対応や子育て支援・特別保育事業の実際についても学習し、実践力の要請を目標とする。

学生の到達目標

1. 主体的に保育の計画を立て、実践する。
2. 子ども理解の方法や指導案作成の実際について学び、研究保育や一日・半日等の責任実習を行う。
3. 授業で学んだ保護者への対応や子育て支援・特別保育事業について、実際の姿を見ることで理解を深める。

授業計画・学習内容

（主な実習内容）

- ・保育全般に参加し、乳幼児の理解や教材研究を積極的にを行い、指導計画を立案する
- ・指導計画に基づき、必要な援助を考え、実践しようとする
- ・自らの実践を省察し、よりよい保育を目指す姿勢を持つ
- ・子どもの発達や個人差を理解する
- ・子どもと家族とのコミュニケーションの方法を具体的に学ぶ
- ・延長保育などの多様な保育サービスを体験し、その必要性を理解する
- ・保育所地域活動や一時保育等の実際に触れ、地域の保育ニーズを理解する
- ・特別な配慮を必要とする子どもへの理解を深め、援助の方法を学ぶ
- ・保育士としての職業倫理を理解する
- ・求められる保育士像を考え、自己の課題を明確にする

学習課題（予習・復習）

- ・乳幼児理解を深め、指導計画を立案する
- ・実習に使用する教材について研究や準備を行う
- ・実習終了後は振り返りを行い、保育者になるにあたっての課題を見出す

成績評価の方法・基準

実習園による実践における「保育実習Ⅱ」の評価 100%

テキスト・参考文献

- 「保育・教育実習から学ぶ（第2版）」 愛智出版
「保育・教育実習を深める」 愛智出版
「保育の計画と方法（第2版）」 同文書院
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」 フレーベル館
「実習の手引き」

その他

授業の目的

小児が心身ともに健やかに成長・発達するよう、日々の保育環境を整える必要がある。そのために必要な小児特有の健康状態、または不健康な状態についての知識を持ち、健康問題に適切に対処できる技術を習得する。

学生の到達目標

1. 小児の成長発達の特徴、評価方法を理解する。
2. 小児の健康状態の特徴を理解する。
3. 小児の健康障害(病気)の原因、症状、予防について知る。
4. 小児の健康障害(病気)に対し、適切な応急処置の方法を知る。
5. 小児に起こりやすい事故の防止と安全教育について理解する。
6. 事故やケガに対し、適切な応急処置の方法を知る

授業計画・学習内容

1. 小児保健実習の意義と目的
2. 小児の成長発達の特徴と身体計測の方法及び評価
3. 精神・運動機能の発達と評価(発達段階の特徴と合わせて)
4. 小児の身体的特徴と健康状態の特徴
5. バイタルサインの測定の方法
6. 小児の生活習慣と養護Ⅰ
7. 小児の生活習慣と養護Ⅱ
8. 小児に起こりやすい症状と観察及び看護Ⅰ
9. 小児に起こりやすい症状と観察及び看護Ⅱ
10. 小児に起こりやすい症状と観察及び看護Ⅲ
11. 小児に起こりやすい事故の予防と安全教育の実際
12. 小児に起こりやすいケガの応急処置の方法Ⅰ
13. 小児に起こりやすいケガの応急処置の方法Ⅱ
14. 小児に起こりやすいケガの応急処置の方法Ⅲ
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

小児の成長発達の特徴を理解した上で、健康について、事故について学習するとより習得しやすいと思います。技術については授業中の演習を積極的に取り組み、繰り返し自主的に復習してください。

成績評価の方法・基準

筆記試験 80%、出席状況及び授業態度 10%、
グループ活動 10%、計 100%

テキスト・参考文献

テキスト：まだ検討中です。
参考文献：随時参考資料を配布する。

その他

授業の目的

乳幼児の精神発達を理解し、適切な保育や支援を実践するため心理学理論や精神発達の知見について概説する。発達段階ごとに生じやすい精神障害や発達障害について、事例と共にその原因や問題解決について理解を深める。具体的には乳幼児の情緒、認知、行動の問題や、虐待、愛着障害等の母子関係の障害、養育者の育児不安や育児ストレスなどに対する対応方法や支援の在り方について幅広く学習する。また地域精神保健活動についても学習し、乳幼児の健全な精神発達を育成するための適切な保育について、自分なりの視点を持てるようになることを目標とする。

学生の到達目標

1. 保育士資格を目指す学生として精神保健に関する基礎的な知識や概念を習得する。
2. 保育者として乳幼児や養育者の心の状態に対する理解を深め、適切な対応や支援に対する視点を獲得する。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
・本授業の概要説明
2. 乳幼児の精神発達と精神保健
・心と身体の関係
3. 乳幼児の精神発達と精神保健
・認知と行動の発達
4. 乳幼児の精神発達と精神保健
・社会性と対人関係の発達
5. 各発達段階の精神保健（学童期・思春期）
6. 各発達段階の精神保健（青年期・成人期）
7. 乳幼児の生活環境と精神保健
・家族関係と子どもの精神保健
8. 乳幼児の生活環境と精神保健
・教育・社会環境と子どもの精神保健
9. 乳幼児の心の問題
・精神身体的障害
10. 乳幼児の心の問題
・神経症的行動障害
11. 乳幼児の心の問題
・発達障害・社会性と対人関係の障害
12. 養育者の精神保健と育児不安
13. 保育者の精神保健と子育て支援
14. 地域精神保健活動と保育
15. まとめと試験

学習課題（予習・復習）

授業への積極的参加と授業内容の理解促進を目的として、ブリーフレポートを毎回実施する。

成績評価の方法・基準

筆記試験 80%、レポート 20%、計 100%

テキスト・参考文献

使用しない。毎回資料を配布又は、提示する。

その他

授業内容に関する積極的な質問や議論を歓迎する

授業の目的

現在、食環境の変化により大人だけではなく将来を担う子どもたちの健康にも様々な問題が起こっている。特に、幼少期は、将来の健康につながる正しい食習慣を身につける大切な時期であるため、子どもの栄養は保育における重要な課題である。

この授業では、専門職として保育者を目指すために必要となる食および栄養の知識を学ぶこと、また、将来自分自身が親となり子育てをする上で必要となる食の技術を学ぶ。

学生の到達目標

1. 生涯にわたる健康と生活に必要な小児期栄養の基礎知識を習得する。
2. 小児に適切な食事が提供できる知識を習得する。
3. 自分自身の食生活が重要であるということを理解する。

授業計画・学習内容

1. 健康の概念
2. 健康の基礎知識
3. 健康障害の病態
4. 健康障害の予防
5. 健康障害改善食の献立
6. 健康障害改善食の調理
7. 小児栄養が大切なわけ
8. 子どもの栄養特徴
9. 妊娠期の栄養と食生活
10. 妊婦用簡単レシピの調理
11. 小児の身体発育
12. 小児の運動機能と精神の発達
13. 乳児期の栄養
14. 育児用ミルクの調乳
15. 栄養と栄養素
16. 栄養素の働き
17. 離乳の定義と必要性
18. 離乳食の応用調理
19. 食品の基礎知識
20. 食生活の基本
21. 幼児期における間食の意義
22. 目的別手作りおやつ
23. 食欲のしくみ
24. 栄養素の消化・吸収と代謝
25. 幼児期の食事の実際
26. 幼児のお弁当作り
27. 授乳期の母乳栄養
28. 授乳期の人工栄養
29. 子どもの喜ぶ簡単おやつ作り
30. まとめ

学習課題（予習・復習）

単に講義を聴くだけではなく、常に自分の身に置き換えて物事を考えるように聴講する。また、調理実習の課題レポートは、あらゆる参考資料を参照して書くようにする。

成績評価の方法・基準

出席、受講態度、レポート、筆記試験による総合評価とする。

テキスト・参考文献

テキスト：青木菊麿 『改訂 小児栄養演習』建帛社
『50音順 調理の基礎知識』東京書籍

その他

注意点：調理実習時は、エプロン、三角巾（バンダナでも可）、靴下を持参のうえ必ず着用すること。また、装飾類（ピアス、指輪など）、マニキュアなど調理に不適切なものは身に付けないこと。

授業の目的

現在、個人が主体的に人として生活していくことが求められ、個人の自己実現の達成が目的とされている。それに伴い、家族のあり方が多様化し、家族の機能の役割も大きく変化している。そこで、本講義では、個人と社会、家族の関係を見直し、現代の家族問題のいくつかのあり方を考察しながら、子育てになぜ家族援助が必要なのか、その目的と背景を理解し、学習していく。また、本当の豊かさとは何かを追求し、子どもにとって幼児教育がどれだけ重要なのか、保育者の社会的役割についても学習していきたい。

学生の到達目標

1. 現在の家族を取り巻く社会環境を理解し、家族にとって子育て支援が欠かせないということを理解する。
2. それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援対策を提供するため、いくつかの関連機関との連携についても理解する。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 家族と社会
3. 家族の形態と機能
4. 諸外国の家族の形態
5. 諸外国の家族の機能
6. 男女共同参画社会と家族
7. 男女共同参画社会と子育て支援
8. 児童虐待の実態とその対応
9. 子育て支援の意義
10. 子育て支援の施策
11. 子育て支援の課題
12. 多様化する家族援助
13. 諸外国における家族援助
14. 家族支援の課題
15. 試験及びまとめ

学習課題（予習・復習）

問題意識と関心をもって、日頃からニュースを見、新聞に目を通しておくこと。また、講義の後のプリントを読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

総合評価（出席状況 15%・授業態度 15%・授業中の提出物 15%・筆記試験 55% 計 100%で評価する。）

テキスト・参考文献

授業でプリントを配布。また、文献、資料を紹介する。

その他

授業に積極的に参加してほしい。

授業の目的

心とからだがかたがとに解放され、深く豊かに生き生きと動くからだの獲得を目指し、ボイス（声）の領域からアプローチしたい。

ひらかれた身体、起こされた声を通して、温かくしなやかに子どもとコミュニケーションをとることのできる保育者としての資質獲得目標とする。

学生の到達目標

1. やわらかなからだへ繋がる“自然体”の獲得を目指す。
2. 声の生まれる仕組みを知り、からだの働きを自覚する。
3. 日本語の特性を知り、豊かな表現力へと繋げる。

授業計画・学習内容

<やわらかなからだ>

I. 発声

- ①姿勢と呼吸～自然体～
- ②声の出るしくみ
- ③呼吸法、発声法
- ④母音について

<弾む言葉>

II. 発音・表現力

- ⑤童謡、唱歌 1
 - ⑥日本語の特性
 - ⑦手遊びなど遊び歌
 - ⑧童謡、唱歌 2
 - ⑨動きを伴う子どもの歌
 - ⑩表現を豊かにする要素（ア・テイクレーション、プロミネンスなど）
 - ⑪絵本や詩などを読む
 - ⑫朗読劇
 - ⑬同上
 - ⑭まとめ
- （上記①③④は毎時間継続して行います）

学習課題（予習・復習）

声に出して作品を読むこと。言葉の奥にある声を聴くこと。

成績評価の方法・基準

出席状況、平常の授業への取り組み方及び最終発表の成果、それにいたる過程などを総合的に判断し評価します。

出席・平常活動 40%、最終試験 60%、計 100%

テキスト・参考文献

テキスト：プリントを配布

その他

動きやすい服装を準備してください。

授業の目的

幼児教育における「言葉」の問題は、子どもの人格形成に大きく影響を及ぼす。「言葉」は、総合的な遊びや生活のなかで、様々な領域と関連しあひながら、子どもたちの育ちを支えていく。この授業は子どもたちと時間を共にし、楽しいと感じることのできる保育者として育っていくことを、実践的に学ぶ場としている。

特に、言葉の湧き出てくる世界としての絵本と児童文化とのかかわりを、教材製作や実習を通して探り、絵本が幼児の発達に及ぼす影響の大きさについて理解していくことをねらいとする。集団生活の場における、保育者と絵本と子どもたちとのかかわり、またその双方の場における絵本体験が、子どもの成長にとってどういう意味をもつのかといったことなどに強い関心をもってほしい。

学生の到達目標

1. 「絵本を読む」とはどういうことかを、実習をとおして理解する。
2. 子どもの成長と絵本体験とのかかわりを理解する。
3. 簡単な「手作り絵本」の方法を習得する。
4. 絵本の読み聞かせの技を磨く。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション（演習のねらい、児童文化演習の授業で学ぶことなど）
2. 絵本体験と子どもの成長について①
3. 絵本体験と子どもの成長について②
4. 絵が語る物語の世界について
5. 『もりのなか』を読み解く①
6. 『もりのなか』を読み解く②
7. 『おおかみと七ひきのこやぎ』から絵本の持つ力を探る①
8. 『おおかみと七ひきのこやぎ』から絵本の持つ力を探る②
9. 手作り絵本の製作プラン立案
10. 手作り絵本の製作①
11. 手作り絵本の製作②
12. 手作り絵本の製作③
13. 手作り絵本の製作④
14. 手作り絵本の発表（グループ）
15. まとめ（作品の提出とレポート作成）

学習課題（予習・復習）

- ・授業の中でできる限り多くの絵本を紹介していく。絵本に関心を寄せ、各自時間を作って大学図書館をはじめ地方の図書館等で一冊でも多くの絵本に目を通しておくこと。
- ・作品製作、実演、発表などを伴う演習形式の授業なので、自分で創意工夫する意欲を持って、積極的に取り組んでほしい。

成績評価の方法・基準

- ・出席、授業への参加態度 40%、実技の習得状況 40%、作品 10%、レポート 10% 計 100%
- ・作品制作に対する取り組みかた（創造性、積極性等）なども考慮して、総合的に評価する。

テキスト・参考文献

決められたテキストは使用しない。必要に応じて随時資料をプリントして配布したり、参考作品などを提示したりする。

その他

- ・絵本の製作や発表などをグループを作って行うので、グループメンバーとして協力的な態度で作品製作に取り組んだり実演したりすることができるようであってほしい。
- ・教材製作をするための若干の材料費を徴収する。

授業の目的

社会生活では、組織内の人とだけでなく、外部のさまざまな立場の人たちと接する機会が増えてくる。職場の人、保護者、地域の方々など、年齢や職位の違う人々との円滑なコミュニケーションができるよう、また、社会人として必要とされる慶事・弔事など、社会生活のルール・マナーを学ぶ。

学生の到達目標

言葉遣い（敬語）、電話対応、訪問の仕方、文書の書き方（お礼状）など、社会人としての常識、マナーを理論と実践で身につける。
働いている学生にとっては、職場でのマナーを見直す機会となる。

授業計画・学習内容

1. 社会人としての態度と身だしなみ
2. 仕事の基本
3. 敬語の正しい使い方
4. 電話対応の基本
5. 電話対応の実際、伝言メモの書き方
6. 来客対応の基本
7. 来客対応の実際
8. 文書作成の基本、文書の種類
9. 対内文書の書き方と実際
10. 対外文書の書き方
11. 対外文書の実際（お礼状）
12. 封筒、葉書の書き方
13. 慶弔のマナー、表書き
14. お見舞い、贈答のマナー
15. 契約の知識、まとめ

学習課題（予習・復習）

職場を想定し、グループに分けて授業を行うので、遅刻や欠席をしないでほしい。

成績評価の方法・基準

- | | |
|----------------|-----|
| ① 授業への取り組みと提出物 | 40% |
| ② 試験 | 60% |
- （敬語、電話対応、来客対応、対内文書、対外文書、表書き）
それぞれ授業で学んだ直後に試験を行う。

テキスト・参考文献

河村真澄 他著 『保育者のためのマナー演習』 三恵社

その他

テキストは、書き込みをしますので、新しいものをご購入してください。
（先輩から譲り受けない）

授業の目的

「保育者とはいかにあるべきか」といった理想を語ることは容易です。しかし、ひとりひとりの子どもたちの多様な育ちと生活とに介入しようとする者に求められる専門性とは、その時々に必要なや要求に応じた保育を考え、それを実践として展開することのできる保育者に自らを変えていく力の実質です。

保育者という存在に様々な角度から検討を加え、保育者としての思考の習慣を培うとともに、保育者としての自覚を形成します。

学生の到達目標

1. 保育者の社会的役割を理解する。
2. 保育者に求められる専門性について理解する。
3. 保育者として思考し行動するための基礎的知識を獲得する。

授業計画・学習内容

1. 保育者とは誰か
2. 子どもの権利の擁護者
3. 制度としての保育者
4. 保育の専門性
5. 保育の構造
6. 保育の原理
7. 保育者の生活
8. 保育者の発達段階
9. 保育者の力量形成
10. 研究者として
11. 保育思想の原点
12. 保育実践の原点
13. 現代社会と保育
14. 保育者と権力
15. まとめ

学習課題（予習・復習）

各回の内容を復習的に熟考・整理するとともに、「保育者として在ることの意味を問い続ける姿勢を保ち、提示する資料や文献を積極的に読み、考え、自分が学生生活を通して「保育者へと変わっていく」端緒を自覚的に探り当てる努力をする。

成績評価の方法・基準

小課題レポート 50%、筆記試験 50%、計 100%。

テキスト・参考文献

テキスト：森上史朗・柏女霊峰編『保育用語辞典』ミネルヴァ書房
参考文献：随時紹介

その他

授業の目的

領域「健康」は、幼児が一人の人間として生きていく上で必要な、健康で安全な生活を送ることができるために、何が必要かを学ぶ。

また、子どもの心身の発達・発育のために、保育者としてどのような支援が必要かを学ぶ。

学生の到達目標

1. 領域「健康」のねらい・内容を知る。
2. 乳幼児期の発育・発達を理解する。
3. 保育者としてのかかわり方、支援の仕方を学ぶ。

授業計画・学習内容

1. 領域「健康」のねらい
2. 保育所と幼稚園の領域「健康」
3. 乳幼児の発育・発達 1
4. 乳幼児の発育・発達 2
5. 乳幼児の発育・発達 3
6. 習慣形成の意義 1
7. 習慣形成の意義 2
8. 習慣形成の意義 3
9. 運動あそびの意義 1
10. 運動あそびの意義 2
11. 運動あそびの意義 3
12. 幼児のけがと安全生活
13. 園における事故の実態と対策
14. 指導計画
15. テスト及びまとめ

学習課題（予習・復習）

1. 常に幼児に関心を持ち、そこから気づくものを大切にすること。
（課題を出します。）
2. 授業の内容のまとめを必ずすること。

成績評価の方法・基準

授業の取り組み方 40%、テスト 60%、計 100%

テキスト・参考文献

内容についてのプリントを配布

その他授業の目的

保育士は児童福祉施設の援助者として大きな役割を担っている。子どもたちの生活のほとんどにかかわるため保育士の対応で子どもたちに必要な援助についての知識と技術の習得を目的とする。

学生の到達目標

授業の中で、ロールプレイ、グループワーク、事例検討、討論などをおこなうので積極的に参加し、しっかり技術と知識を習得してほしい。

授業計画・学習内容

1. 子どもたちとのコミュニケーションと人間関係づくり ①
コミュニケーションのとり方
2. 子どもたちとのコミュニケーションと人間関係づくり ②
援助者としての資質と倫理について
3. 子どもたちとのコミュニケーションと人間関係づくり ③
援助者としての資質と倫理について
4. 基本的な日常生活の援助
5. 心の傷を癒し心を育む援助
6. 自己実現や自立への援助
7. 同上
8. 「あつかいにくい」といわれる子どもたちのかかわり方
9. 同上
10. 親との関係づくり
11. 親子関係を調整するための援助
12. 親との面接場面のロールプレイ
13. 児童虐待をした親の事例検討
14. 同上
15. 全体のまとめ

学習課題（予習・復習）

毎回のテーマごとに、「ふりかえり」レポートを提出すること。

成績評価の方法・基準

出席状況 50%、レポート 40%、授業中の取り組み姿勢 10%で評価する。

テキスト・参考文献

使用しない

その他

特になし

授業の目的

本授業は、保育者として、自ら学び、自ら考え、課題を発見し、問題解決していく人間力を培うと共に、子どもを援助する力や方法を実践的に学ぶ。様々な素材と技法を使い、創意工夫しながら制作した作品を、手作りの教材として、今後保育現場で役立てるために、総合的な表現演習を学修する。本授業で制作する、オリジナルの影絵、ペープサート、大型紙芝居などの作品を劇や芝居の中で活用し、幼児教育祭に参加する。

学生の到達目標

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 色彩の応用①
3. 色彩の応用②
4. バルーンの制作①
5. バルーンの制作②
6. バルーンの制作③
7. バルーンの制作④
8. ポップアップメイキング①
9. ポップアップメイキング②
10. ポップアップメイキング③
11. モビールの制作①
12. モビールの制作②
13. 創作劇の観賞
14. ストーリーの考案
15. 脚本制作①
16. 脚本制作②
17. 創作劇の制作①
18. 創作劇の制作②
19. 創作劇の制作③
20. 創作劇の上演練習①
21. 創作劇の上演練習②
22. アドベントカレンダーの制作①
23. アドベントカレンダーの制作②
24. ヘクセンハウスの制作①
25. ヘクセンハウスの制作②
26. 幼児教育祭での発表準備①
27. 幼児教育祭での発表準備②
28. 幼児教育祭での発表準備③
29. 発表
30. まとめ（レポート作成）

学習課題（予習・復習）

常に保育・教育実践の場面を想定し、幼児と関わる上での造形活動の在り方を考える。材料を準備し、各自それぞれの創意工夫をしながら制作方法を考える。

成績評価の方法・基準

出席状況 10%、授業参加状況、制作過程 30%、提出作品 60%、計 100% 制作に対する積極的な姿勢と幼児教育祭での対外的な作品発表に対する責任を持つこと。

テキスト・参考文献

参考作品、参考プリントなどは、講義の中で適宜紹介する。

その他

- ・若干の材料費が必要となる。
- ・絵の具や様々な素材を扱います。汚れてもかまわない服装で受講すること。
- ・本シラバスは授業内容の予定を記したものであるが、授業の進捗状況や制作の進度に合わせて、授業計画の変更、追加等が発生することがある。

授業の目的

保育者になるために、本科目では、今までの学びを総合的に捉え、実践につなげていくことをねらいとする。具体的には、保護者支援についてテーマを絞り、保育者としてのかかわりを考えていきたい。また、幼児教育祭に向けて、子どもの目線に立ち、子どもが楽しめる活動を企画し、当日実践することを目的とする。

学生の到達目標

これまで大学で学修した専門的な知識や内容を活かし、作品制作や活動発表を通して、学びの集大成とする。

1. 子どもを取り巻く問題を把握し、保育者に求められる役割を理解する。
2. 保護者の状況や思いを理解し、保護者を支えるかかわりを考える。
3. 個人で、またはグループで調べたことや考えたことをまとめ、聞く人に伝わるように発表する。
4. 子ども理解に努め、子どもに寄り添った援助やかかわりをしようとする。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 質問内容を考える・調査計画を立てる
3. 調査の実施(1)
4. 調査の実施(2)
5. 調査結果をまとめる(1)
6. 調査結果をまとめる(2)
7. 調査結果を発表する(1)
8. 調査結果を発表する(2)
9. 幼児教育祭の準備(1)
10. 幼児教育祭の準備(2)
11. 幼児教育祭の準備(3)
12. 幼児教育祭の準備(4)
13. 幼児教育祭の準備(5)
14. 幼児教育祭のリハーサル
15. 幼児教育祭への参加(最終発表)

学習課題（予習・復習）

- ・自分が調べたいこと、理解を深めたいことを考え、探求する。
- ・計画をもとに、調査を行う。
- ・得た結果を協力してまとめる。
- ・幼児教育祭に向けて、各自、各グループで準備を進める
- ・幼児教育祭当日は、目的やねらいを意識して、子どもたちとかかわる。

成績評価の方法・基準

授業への出席態度・取組 30%、成果物の発表 50%、提出物 20%、計 100%

テキスト・参考文献

必要時、指示します。

その他

- ・自分の課題を見つけ、主体的に取り組むこと。
- ・グループワークでは、メンバーとしての自覚を持ち、協力して取り組むこと。
- ・人に分かりやすく伝える、人の話を聞く、という姿勢を大切にすること。
- ・保育実践をイメージしながら、授業や幼児教育祭に臨むこと。

授業の目的

乳幼児の心身を健全に育む方法及び技術について実践的な知見を深める。さらに、保育者を目指すものとして、乳幼児の発達に関連する課題を設定し、主体的に課題に取り組むことで、乳幼児の発達やを保育に関する自らの視点を持てるようになることを目標とする。

学生の到達目標

1. 乳幼児の心身を健全に育む方法及び技術について、実践的な知見を深める
2. 保育者として現代社会における乳幼児の発達における課題や問題を捉え、探求することができる能力を養う。
3. グループでの共同作業を通して、資料作成やフィールドワークなどの調査・研究を進めることができる。
4. パワーポイントなどを用いて、調査研究の結果を発表する能力を習得するとともに、全体討議を通じて考察を深める。

授業計画・学習内容

1. オリエンテーション
2. 乳幼児の発達と保育の関わり(1)
3. 乳幼児の発達と保育の関わり(2)
4. 乳幼児の発達と保育の関わり(3)
5. 現代社会における乳幼児の発達に関する課題及び問題点について(1)
6. 現代社会における乳幼児の発達に関する課題及び問題点について(2)
7. 課題の設定と調査・研究の基本的な方法について
8. グループワーク(1) 課題に沿って調査・研究を行う
9. グループワーク(2) 課題に沿って調査・研究を行う
10. グループワーク(3) 課題に沿って調査・研究を行う
11. プレゼンテーション資料作成(1)
12. プレゼンテーション資料作成(2)
13. 成果発表
14. 成果発表に基づく全体討論と発表内容のシェアリング
15. まとめ

学習課題（予習・復習）

乳幼児の発達と保育の関連について、自らの体験やメディア等の情報も含めて問題意識を持ち、テーマに関する事項についてまとめておく。また、調査・研究、資料作成の方法についての理解を深めておく。

成績評価の方法・基準

授業・議論への参加状況 30%、研究成果 70%、計 100%。

テキスト・参考文献

使用しない。毎回資料を配布又は、提示する。

その他

授業内容に関する積極的な質問や議論を歓迎する。